

国際交流
センター・
国際部

2020年度 成果報告書

目次

I. グローバルパートナーシップ形成

海外訪問	3
海外からのご来訪	3
OB ネットワーク	3
国際交流協定の締結	4
その他の活動	4

II. 学生交流

海外への学生派遣

1. 交換留学	6
2. 海外研修プログラム	6
3. 海外留学の事前指導およびフォローアップ	9

海外からの学生受入

1. 交換留学	15
2. 日本語・日本文化短期プログラム	15

III. 日本語教育・留学生サポート事業

日本語教育

1. 日本語研修コース	17
2. 日本語補講	21
3. 日本語・日本事情教育	26

留学生サポート

1. 留学生支援・相談、文化交流	31
2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）	35
3. その他の活動	45

IV. 国際化教育

G-フィロス

1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート	47
2. イベント・活動紹介	50

医学部キャンパスでの取り組み	55
----------------	----

V. 地域貢献

留学生の地域との交流	57
小・中・高等学校への留学生派遣	57

VI. 国際交流関連データ	58
---------------	----

国際交流センター長挨拶

茅 暁陽（まお しゃおやん）
国際交流センター長・国際部長

本報告書では、第3期中期目標・中期計画に掲げる本学のグローバル化に関する目標達成に向けて、国際交流センターと国際部のスタッフが丸となって取り組んできた一年間の活動内容を、Ⅰ. グローバルパートナーシップ形成、Ⅱ. 学生交流、Ⅲ. 日本語教育・留学生サポート事業、Ⅳ. 国際化教育、Ⅴ. 地域貢献、Ⅵ. 国際交流関連データの6つのパートに分けて紹介しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により、国を跨いで交流のみならず、日常的な活動までもが大きく制限され、仕事や教育のオンライン化、飲食店や遊興施設の時短営業や休業、これらに伴う雇用機会の減少などが社会的な問題となりました。

本学においても授業のオンライン化により学生はほとんど大学に来る機会が無く、例年行っている実地見学旅行、地域交流行事、日本文化体験、学長が主催する懇談会等の文化交流事業も中止を余儀なくされ、まだ良く知らない日本で孤独を経験した留学生も少なくありません。さらにアルバイトによる収入や自国からの仕送りの減少のほか、日本に来ることができず、国や地域によってはネット環境が良いとは言えない状況の中でオンラインで授業を受け続けている学生も複数名おり、生活困窮の状態が続く学生もおりました。このような状況を少しでも解消すべく、オンラインによる交流や生活支援を実施して参りました。

また、海外への派遣も中止を余儀なくされ、代替として語学・文化オンラインプログラムを企画し、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、レスター大学（英国）及びノーザン・アイオワ大学（米国）の3大学と連携して開催しました。オンライン留学には、費用、ビザ等の手続き、渡航先の治安などの面においてメリットもありますが、やはり、実際に異文化に身を置くことができない、時差の関係から多くが平日の夜間に時間を作る必要があるなどの課題もあります。それでも、参加した学生さんへのインタビューやアンケートからは、オンライン研修プログラムに対する満足度は高く、特に英語学習や現地に渡航して異文化体験に参加するモチベーションの向上につながったことが分かりました。

さらに2020年度は、文部科学省の委託事業「留学生就職促進プログラム」に採択され、留学生の国内就職の促進に向けた取組を開始しました。このプログラムでは、産学官の連携の下で、日本語教育、キャリア教育、企業理解教育の3本の柱により、留学生が自分自身を理解し、将来の自分のキャリアビジョンを描き、自分に合う仕事に就けるよう、キャリア形成を支援します。採択時期が11月と年度の後半であったにもかかわらず、速やかに産学官連携ネットワークを整え、無事プログラムを軌道に乗せることができました。

これまでの取組により、本学の外国人留学生数は令和2年5月1日現在で229名に達し、これは第3期当初比で約30%の増となります。このように大きな成果を上げることができたのも、学長及び国際交流担当理事の強力なリーダーシップのもと、国際交流センター及び国際部国際企画課のスタッフ全員が協働で献身的に対応してくださったこと、及び各学域や附属教育研究施設の多くの皆様から多大なご支援とご協力をいただいていたことの賜であると考えております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

また、一日も早く平凡な日常が戻ってくることを期待したいと思います。

I. グローバルパートナーシップ形成

本学の特色あるさまざまな研究分野を通して、新たな海外大学との交流が広がりつつあります。国際交流センター・国際部では、新たな協定締結や海外からの訪問者受け入れを通して、山梨大学の更なるグローバル化に向けて、グローバルパートナーシップの形成を推進しています。

海外訪問

学長・教職員の協定校等訪問

例年、海外の交流協定校や、新たな協定締結の可能性があるその他の教育機関等を、学長、国際交流センター長および関係する教職員が訪問し、グローバルパートナーシップの強化・拡大に努めています。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、協定校等への訪問はありませんでした。

海外からのご来訪

海外の大学からのご来訪

例年、交流協定校から、学生交流のプログラム担当教職員が本学を訪れ、さらなるプロモーションに向けた打ち合わせや本学学生へのプログラム説明会などが行われています。また、協定校以外にも本学の特色ある研究に興味を持つ海外の教育機関は多く、今後の協定締結に向けての訪問等があります。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外から本学への来訪者はありませんでした。

OBネットワーク

国際交流センターでは、本学を卒業・修了した留学生とのネットワーク形成に向け、留学生同窓会の整備を進めています。

すでに同窓会に登録している卒業・修了生に対しては、山梨大学とのつながりを継続してもらえるよう、大学広報誌である『Vine』電子版や、年末年始の挨拶状をEメールで送信するとともに、国際交流センターウェブサイトにも、Eメールと同様の内容で卒業・修了生へのメッセージを掲載するなどしています。このような海外在住の本学出身留学生とのネットワークを、本学の広報活動、海外での優秀な留学生の獲得に活用したいと考えています。



同窓生宛グリーティングカード

大学刊行物 電子版 <https://www.yamanashi.ac.jp/about/281>

国際交流センターウェブサイト <https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/>

国際交流協定の締結

2020年度には、新たに2件の大学間交流協定を締結しました。このうち揚州大学は、2019年12月に訪問した際に締結した学部間交流協定(医学部)を大学間交流協定に拡大し、交流を一層推進することとしたもので、2020年7月13日付けで締結しました。また、ノーザン・アイオワ大学と2021年1月26日付けで大学間交流協定を締結し、今後のさらなる交流に向けて調整を行いました。

その他の活動

中国の大学間交流協定校よりマスク、ガウン等が寄贈されました

新型コロナウイルス感染拡大が深刻化し世界的にマスクが不足する中、本学の大学間交流協定校である中国・杭州電子科技大学からマスクが寄贈されました。また、西安交通大学、揚州大学、西安医学院、五邑大学からも新型コロナウイルス感染症に対応している医学部及び付属病院の感染対策に役立ててほしいとマスク、ガウン等の医療用品を頂戴しました。

オンライン(ZOOM)にて山梨大学進学説明会を開催：2020年12月1日(火)

例年、日本語学校等を直接訪問し進学説明会を実施していましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により直接訪問して実施することができなかつたため、オンライン(ZOOM)にて説明会を開催しました。

2020年12月1日(火)、全国の日本語学校や本学への進学に興味のある学生を対象に、本学の教育、研究上の特色、甲府市の住環境等に関する最新の情報を紹介し、地方の大学で学ぶメリットなど山梨大学の魅力をアピールしました。

国際交流センター・国際部では、優秀な留学生をリクルートするため、毎年国内外の日本語学校や海外の大学にて広報活動を行っています。



やまなしだいぐ おんらいん
山梨大学オンライン
しんがくせつめいかい
進学説明会

<開催日時>
2020年12月1日(火) 13:30 ~15:00

<申込み>
個人で直接お申込みできます!
… 申込期限 …
11月30日(月)まで

<https://forms.gle/TLnLDWHGwQFhOKYU8>

<実施方法>
オンライン(ZOOM)
※Googleフォームより申込頂いた後、メールアドレスにZOOMリンク等をお送りします。

<説明会概要>
①本学教育内容の概要と修学環境の案内
②学生募集についての説明 ③質疑応答

<問合せ> 山梨大学国際部国際企画課 電話番号：055-220-8703
メールアドレス：yu-international@yamanashi.ac.jp

II. 学生交流

さまざまな分野で国際的な視野を持って活躍する人材を育成するため、日本人学生の海外派遣や、各国留学生との交流事業に力を入れています。日本人学生の海外留学や海外インターンシップへの関心は年々高まっており、派遣人数も増加傾向にあります。

また、海外派遣だけでなく、留学生受入数のさらなる増加を目指し、学生訪問団の受け入れや、在籍する留学生のサポート事業にも力を注いでいます。

海外への学生派遣

1. 交換留学

新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣事業は行いませんでしたが、前年度に派遣した留学中の学生のうち、新型コロナウイルス感染症の影響により当初予定していたプログラムが変更・中止となり、追加で費用負担が発生した学生に対し、「山梨大学海外留学応援プログラム事業」にて費用の支援を行いました。

2. 海外研修プログラム

例年、本学のプログラムとして、交換留学のほか、夏季・春季休暇中の短期語学留学と、語学留学に企業や学校、地方自治体でのジョブ・シャドイング（インターンシップ）が加わった海外研修を行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、現地に渡航しての研修を実施することができなかつたため、オンラインにて語学・文化研修を行いました。オンラインプログラムに参加し、継続的に国際交流と英語学習ができるよう、「山梨大学海外留学応援プログラム事業」にてプログラム参加費用の支援を行いました。

(1) 夏季海外研修プログラム

現地派遣及びオンラインともに実施しませんでした。

(2) オンライン春季海外研修プログラム

春季海外研修プログラムとしては、協定校である米国のノーザン・アイオワ大学、英国のレスター大学、及びカナダのブリティッシュ・コロンビア大学の計3大学が実施するオンラインプログラムに参加しました。それぞれのプログラムについて、以下にご報告します。

2020年度 春季 ONLINE English & Culture Programs 2020
語学・文化オンラインプログラム

カナダ：ブリティッシュ・コロンビア大学英語・文化研修

- 参加コース：Global Citizenship through English (GCE) Online Program
- 英語授業総時間数 6 0 時間
- 他国のクラスメイトとチームやペアとなり、授業を進めます
- UBC のバーチャルキャンパスツアー、ダウンタウンツアー、ソーシャルチャイイベントへの参加 等

期間：2021年2月22日（月）～3月18日（木）
火曜日から金曜日 午前9時～午前11時15分（日本時間）
費用：約10万円前後（※変動の可能性有）

英国：レスター大学英語・文化研修

- 英語授業：日本の他大学との混合クラス、総時間数約28～29時間
- 文化イベント：英国文化の紹介や現地バーチャルツアー
- ソーシャルイベント：現地学生との交流
- 英語クラブ：5名程度のグループメンバーとディスカッション 等

期間：2021年2月8日（月）～2月26日（金）
月曜日から金曜日 16時30分～20時（日本時間）
費用：約11万円前後（※変動の可能性有）

米国：ノーザン・アイオワ大学英語・文化研修

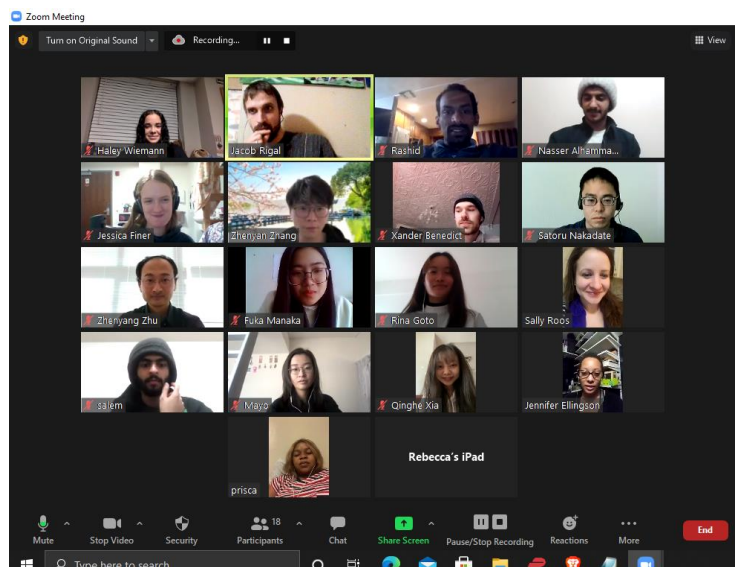
- 週約10時間のオンライン英語授業（計60時間程度）
（リスニング・スピーキング・リーディングコースまたは、ライティング・グラマールコースの選択）
- 現地学生との交流
- 会話パートナーとの交流 等

期間：2021年2月8日（月）～3月17日（水）
月曜日から金曜日 ※プログラム時間については、参加人数により調整します。
費用：約8万円前後（※変動の可能性有）

興味がある、詳しい話を聞きたいという方は、お気軽に**国際企画課**にお問い合わせください◎
場所：B1号館2階 222室 TEL：055-220-8703
Email: yu-study-abroad@ml.yamanashi.ac.jp

申込締切：11月27日（金）

募集要項・申込書はこちらから！



① 米国 ノーザン・アイオワ大学 オンライン英語・文化研修

日程：2021年2月8日（月）～3月17日（水）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学国際交流センターが交流協定を締結している米国アイオワ州シーダーフォールズにあるUniversity of Northern Iowa（ノーザン・アイオワ大学）のThe Culture and Intensive English Program（CIEP）による、オンライン英語・文化研修プログラムで、本プログラムには7名の学生が参加しました。

このプログラムの参加学生は、「リスニング・スピーキング・リーディング」の週10時間コース、または「ライティング・文法」の週10時間コースのいずれかに参加し、約6週間集中的に英語力を磨きました。また、英語の授業のみならず、授業時間外には現地学生との会話時間（Conversation Hour/Conversation Partner）も設けられており、現地学生との交流を通し異文化理解を深めました。参加学生の中には、連絡先を交換し、プログラム終了後も同プログラムを通して出会った現地の学生と交友関係を築いている者もいます。

UNICIEP American Culture and English Program
February 8- March 17, 2021

What is included?

- Free participation in our Placement Exam on January 19th
- Six weeks of online, synchronous instruction in your preferred subjects
- Weekly Online Conversation Hours: Connect with other CIEP and UNI students while participating in conversation and activities
- Conversation Partner: Meet with a UNI student once or twice weekly to practice your skills and learn about US American culture
- Certificate of Participation upon completion of the program

What are the costs?
Total Cost: \$750

There are NO textbook costs, admission costs, or additional fees

Design your instruction!
Choose one of the following options for your six week program:

Listening/Speaking and Reading
Participate in 10 hours per week of classroom instruction of conversational listening and speaking and academic reading
Class times (Monday - Friday):

OR

Writing/Grammar
Participate in 10 hours per week of classroom instruction of academic writing and grammar
Class times (Monday - Friday):
Writing/Grammar: 8:00 - 10:00am CDT

UNIVERSITY OF YAMANASHI

University of Northern Iowa
International Programs
Culture and Intensive English Program

Contact us with Questions or to Apply:
1200 W 23rd St, Bartlett Hall 3025, Cedar Falls, IA 50614-0511
Email: ciep@uni.edu Website: www.uni.edu/ciep

プログラムポスター

② 英国 レスター大学 オンライン英語・文化研修

日程：2021年2月8日（月）～2月26日（金）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学が交流協定を締結している英国イングランド中部レスター市にある University of Leicester（レスター大学）の English Language Teaching Unit（ELTU）が実施するオンラインプログラムで、本プログラムには3名の学生が参加しました。

このプログラムでは、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目的とした学習のほか、スコーン作り等の英国文化紹介や現地学生に折り紙を教える等のソーシャルイベントも含まれており、参加学生からは、「とにかく授業が楽しい」、「授業内でも、アクティビティでも発言する機会が多く、ものおじせずに英語を話すことができるようになった」といった感想が寄せられました。

Online English and British Culture Programme 2021 – draft timetable

	Monday 8 th February	Tuesday 9 th February	Wednesday 10 th February	Thursday 11 th February	Friday 12 th February
	8 to 10 hours of guided independent study and activities				
7:30 – 9:00 GMT	Welcome and introduction	English class 2	English class 4	English class 5	English class 7
16:30 – 18:00 JST					
9:30 – 11:00 GMT	English class 1	English class 3	Cultural event 1	English class 6	Social event 1
18:30 – 20:00 JST					
	Monday 15 th February	Tuesday 16 th February	Wednesday 17 th February	Thursday 18 th February	Friday 19 th February
	8 to 10 hours of guided independent study and activities				
7:30 – 9:00 GMT	English class 8	English class 9	English class 11	English class 12	English class 14
16:30 – 18:00 JST					
9:30 – 11:00 GMT	English Club 1	English class 10	Cultural event 2	English class 13	Social event 2
18:30 – 20:00 JST					
	Monday 22 nd February	Tuesday 23 rd February	Wednesday 24 th February	Thursday 25 th February	Friday 26 th February
	8 to 10 hours of guided independent study and activities				
7:30 – 9:00 GMT	English class 15	English class 16	English class 18	Assessment	Farewell class/class awards
16:30 – 18:00 JST					
9:30 – 11:00 GMT	English Club 2	English class 17	English class 19	Social event 3	Closing ceremony
18:30 – 20:00 JST					

English class: these are similar in contents and format to the regular EBCP classes and would contain no more than 16 students.

Cultural event: we would give the student an online introduction to aspects of British culture. For instance, they may involve a virtual visit to a local museum.

Social event: these are fun online activities with University of Leicester students, giving the EBCP students the chance to meet people of their own age.

English Club: these are informal discussion groups of around five students hosted by our friendly support staff.

Independent study: students will be given weekly tasks and activities which they will complete by themselves following instructions from teachers.

プログラムスケジュール
③ カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学 オンライン英語・文化研修

日程：2021年2月22日（月）～3月18日（木）（日本時間）

本プログラムは、山梨大学国際交流センターが交流協定を締結しているカナダブリティッシュ・コロンビア州にある The University of British Columbia（ブリティッシュ・コロンビア大学）の English Language Institute (ELI) で開講される「English for the Global Citizen」というコースのオンラインプログラムで、本プログラムには11名の学生が参加しました。

このプログラムは、近年の国際的課題を、英語スピーキング力を養いながら学ぶことを目的としています。現代社会の課題について、ディスカッションをする機会が多く、学生からは「ディスカッションが楽しいし、勉強になる」といった声や、「ディスカッションでは、日常生活で使う以外の言葉も使って発言する機会が多く、言いたいことが言えなかったときに悔しくて、さらに英語学習へのやる気がでる」といった声がありました。

MODULE 2: February, May, August, November			
Week 1 CANADIAN SOCIETY	Week 2 ENVIRONMENT	Week 3 THE WORKING WORLD	Week 4 WORLD COMMUNITY, HUMAN RIGHTS
First Nations	Climate Change	Developing/Developed Economies	Global Communities
Immigration	Waste (i.e. Landfills)/Recycling	Distribution of Wealth	Women's/Men's Roles/Rights
Multiculturalism/Diversity	Ecosystems	Poverty (Local & Global)	Children's Roles/Rights
UBC Community Engagement	Ecotourism/Green Business	Workers' Rights/Abuses	Gay Rights
Volunteering	Renewable Energy Sources	Fair Trade	International Law/NGO

プログラムスケジュール

3. 海外留学の事前指導及びフォローアップ

本学のプログラムで留学する学生に対しては、交換留学及び海外研修プログラム共に、事前指導や帰国報告会などのフォローアップを行っています。以下に、これらの取り組みについて報告します。

(1) 2020年度 交換留学・海外研修プログラム帰国報告会

この報告会への出席・発表は、交換留学・海外研修プログラム共に、本学の交流協定校へ留学をした学生すべてに課しているものです。発表を行う学生は各々が準備したスライド資料を用いて、研修の様子、成果などを報告します。2020年度は、7月3日（金）にオンライン（ZOOM）にて開催しました。

米国 イースタン・ケンタッキー大学および英国 オックスフォード・ブルックス大学への交換留学から帰国した2名と、2～5週間の2019年度春季海外研修プログラム（米国 ノーザン・アイオワ大学英語・文化研修、英国 レスター大学英語・文化研修、カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学英語・文化研修）に参加した、計28名の学生がそれぞれの留学・研修成果について報告しました。

この報告会は、留学した学生に対して、自身の経験を振り返り、留学・研修の経験が学習意欲やキャリア形成に及ぼした影響を再確認することを期待するとともに、これから留学を考えている学生に対する啓発も兼ねています。実際に、留学を経験した学生たちからの留学先での授業、文化、生活そして職業体験などの報告は、これから留学に臨もうという学生の疑問や不安を解消し、留学への意識を高める良い機会となっています。

令和2年度 第1回 山梨大学
交換留学・春季海外研修 帰国報告会
令和2年7月3日(金)
16:30~18:00 [ZOOM開催]
※以下 Google フォームより、事前登録を行ってください。
[https://forms.gle/JjAkE2miMQsDQJ857]

実際に留学をした人の体験談が聞ける貴重なチャンスです!!
海外に興味がある方、ぜひ先着の方の応募を優先にしてください。

◆発表内容◆
【交換留学】
・米国 イースタン・ケンタッキー大学
・英国 オックスフォード・ブルックス大学
【春季留学(インターンシップ)研修】
・米国 ノーザン・アイオワ大学(英語・文化研修)
・英国 レスター大学(英語・文化研修)
・カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学(英語・文化研修)

帰国報告会ポスター

(2) 英語・文化オンラインプログラム参加学生に対するアンケート

海外研修プログラムに参加する学生を対象に、留学前・留学後のアンケート調査を行っています。異文化交流や語学学習、インターンシップ等の留学体験を通じて学生にどのような変化があるのかを測ると同時に、参加者の声を聞くことによって、次年度以降の海外研修プログラムの充実を図っています。

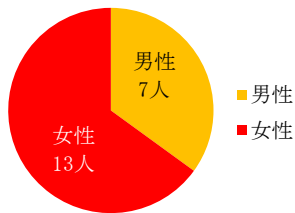
本報告書では、以下の3つのプログラム参加学生に対するアンケート結果を紹介します。

- ・2020年度米国 ノーザン・アイオワ大学英語・文化オンラインプログラム
- ・2020年度英国 レスター大学英語・文化オンラインプログラム
- ・2020年度カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学英語・文化オンラインプログラム

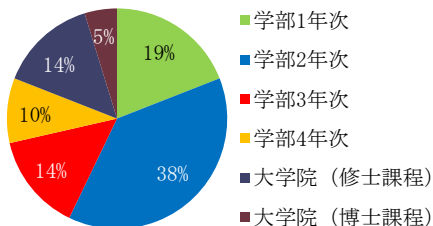
アンケート結果(21名中20名回答)

<回答者内訳>

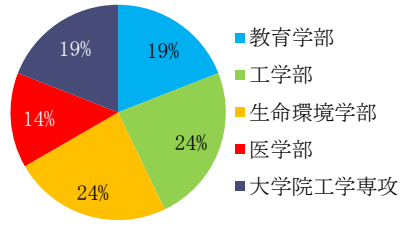
回答者内訳



回答者学年

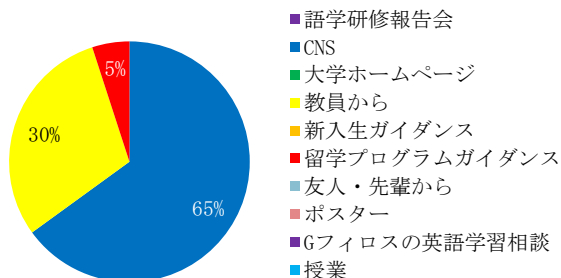


回答者所属学部

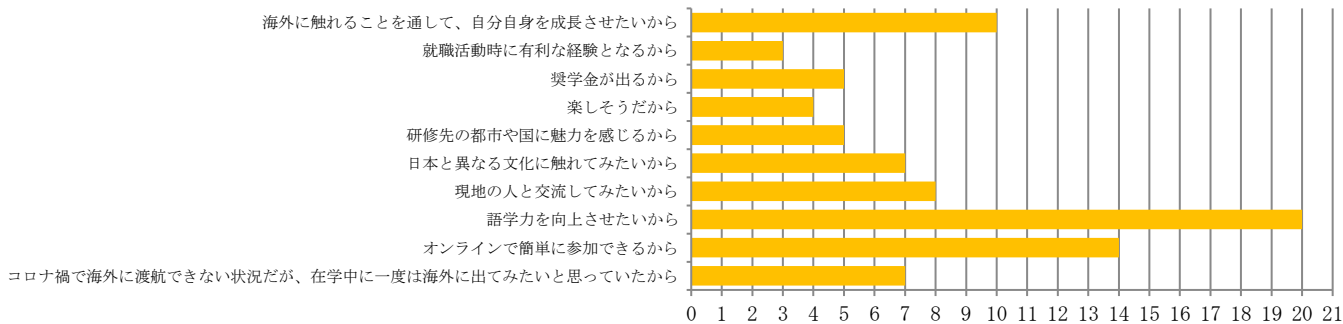


<各項目回答>

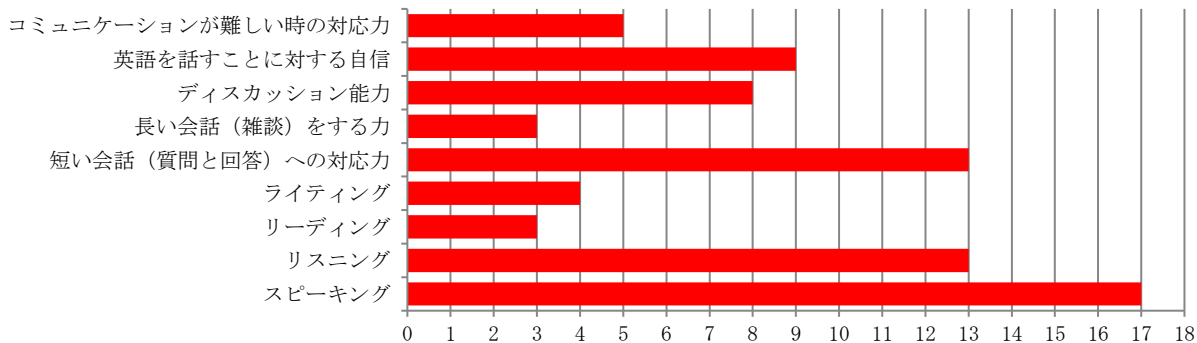
この語学研修を何で知りましたか?



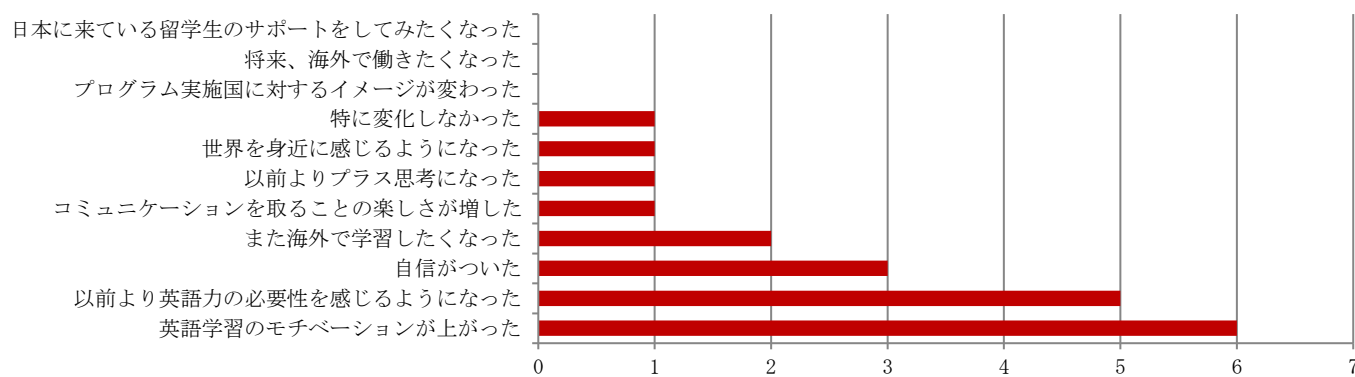
なぜ本研修に参加しようと思いましたか?
(複数回答可)



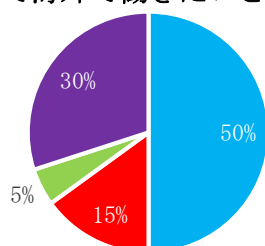
この研修で英語力の中のどのようなスキルが特に上達したと思いますか?
(複数回答可)



この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか？（複数回答可）

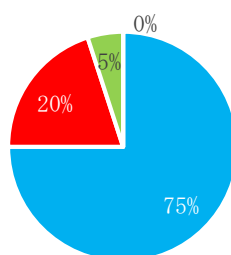


この研修に参加する前と後の、気持ちの変化を教えてください。研修に参加して海外で働きたいと思いましたか。



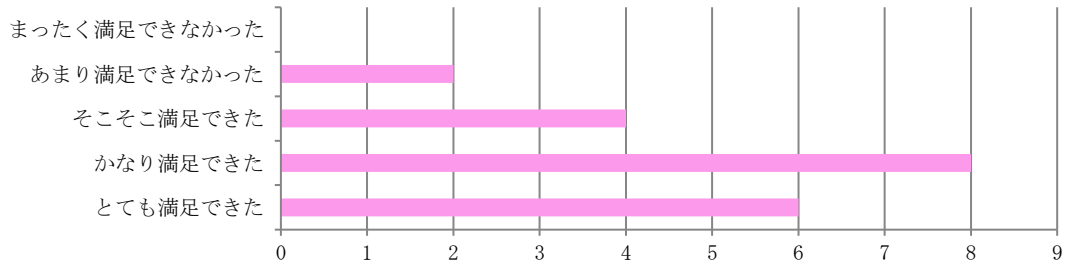
- はい。研修前も働きたいと思っていて、研修に参加しても変わらず働きたいと思っている。
- はい。研修前は働きたいと思っていなかったが、研修に参加して働きたいと思った。
- いいえ。研修前は働きたいと思っていたが、研修に参加して働きたくないと思った
- いいえ。研修前も働きたくないと思っていたし、研修に参加した後も変わらず働きたくない。

今回のプログラムで学んだスキルを活かし、海外に渡航できる状況になったら、現地でのプログラムに参加したいですか。

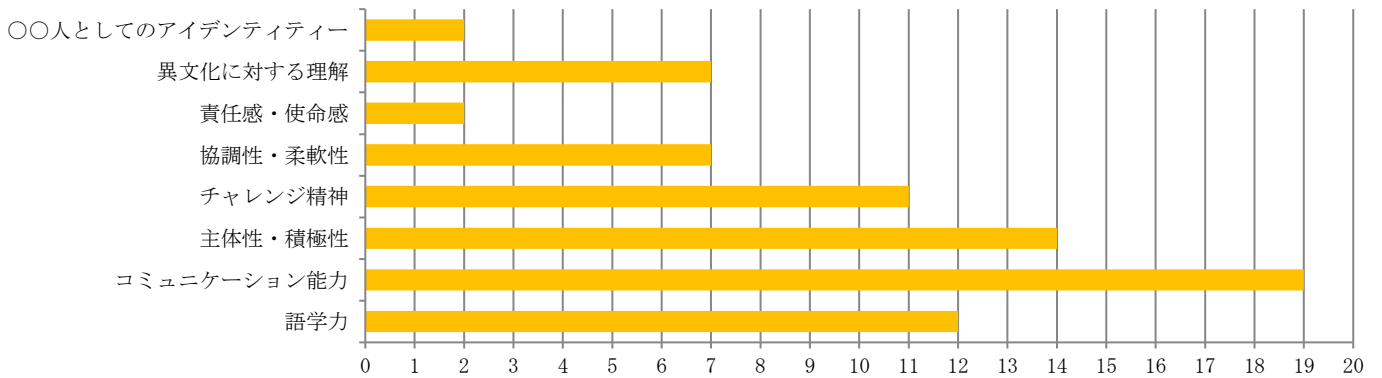


- はい。実際に現地に渡航して、異文化を体験したい。
- はい。プログラム参加前は、英語の勉強だけでいいと思っていたが、プログラム参加して、実際に渡航したいと思った。
- いいえ。プログラム参加前は、現地に渡航したいと思っていたが、今回のプログラムに参加して、オンラインでも十分だと思った。
- いいえ。英語の勉強だけでできればいい。

研修プログラムは満足できましたか？



グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を3つ選んでください。



(3) オンライン海外研修プログラム参加者へのサポート (2021年2月～3月)

国際交流センター助教 會田 篤敬

1. オンライン海外研修プログラムの概要

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、留学派遣・受入に大きな影響が出た。そのような未曾有の状況下で、2021年2月から3月にかけて3つのオンライン海外研修プログラムが行われた。各プログラムでは、英語の授業だけではなく、文化体験や現地の学生との交流の機会も設けられていた。また、プログラムは、夜の時間帯に実施され、日中に学生たちがほかの活動もできるといったオンラインプログラムならではのメリットもあった。

コース	プログラム期間	参加人数
ノーザン・アイオワ大学 (米国)	2021年2月8日 (月) ～ 3月17日 (水)	7人 (教:1、生:2、M:3、D:1)
レスター大学 (英国)	2021年2月8日 (月) ～ 2月26日 (金)	3人 (医:2、教:1)
ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)	2021年2月22日 (月) ～ 3月18日 (木)	11人 (医:1、教:2、工:5、生:3)

2. プログラムのサポート

オンライン海外研修プログラムに参加した学生に事前授業、及びおはなしサポートの2種類のサポートを提供した。

2021年1月25日 (月曜日) の昼休みに、オンラインプログラム参加者向けの事前授業が行われた。新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンラインで実施された。この事前授業では、本学の留学派遣・受入を担当している教員が講師として「授業に向けての精神面での準備」、及び「留学中の記録」の2つの内容について講義した後に、留学中のサポート体制に関して説明をした。

おはなしサポートの内容は、担当教員と留学に関する相談や話をするといったものである。プログラム終了後は担当教員がインタビューを行ない、インタビュームービー・記事 (日本語と英語) としてまとめ、本学ホームページ上で公開した。

3. 参加した学生の声

オンライン海外研修プログラムに参加した全員の学生に対し、アンケート調査を行なった。満足度の調査では、9割の学生が肯定的な回答をしていた。また、「今回のプログラムで学んだスキルを活かし、海外に渡航できる状況となったら、現地でのプログラムに参加したいですか」という質問に対しては9割5分の学生が現地のプログラムに参加したいと答えていた。自由記述欄でも、前向きなコメントが多数見られた。以上の結果から、今回のプログラムは満足度が高かっただけでなく、プログラム内での経験が「実際に現地に行くこと」に対して前向きな考え方を形成したことが窺えた。

満足度の調査結果

選択肢	人数	割合
とても満足できた	8	40%
かなり満足できた	6	30%
そこそこ満足できた	4	20%
あまり満足できなかった	2	10%
まったく満足できなかった	0	0%

今回のプログラムで学んだスキルを活かし、海外に渡航できる状況となったら、
 現地でのプログラムに参加したいですか

選択肢	人数	割合
はい。実際に現地に渡航して、異文化を体験したい。	15	75%
はい。プログラム参加前は、英語の勉強だけでいいと思っていたが、プログラムに参加して実際に渡航したいと思った。	4	20%
いいえ。プログラム参加前は、現地に渡航したいと思っていたが、今回のプログラムに参加して、オンラインでも十分だと思った。	1	5%
いいえ。英語の勉強だけでできればいい。	0	0%

自由記述欄の回答例

- ・今回のプログラムはとても貴重な体験となりました。海外の方だけでなく、他大学の友達とコミュニケーションを取れたのも良い経験でした。また、参加前は不安でしたが、回数を重ねるうちに楽しめるようになっていきました。英語のモチベーションもかなり上がったので、参加してよかったと思っています。
- ・コロナ禍で留学を諦めることになり、国内でもやりたいことがある私にとって、最高のプログラムでした。短期間の割には新しいことをたくさん身につけられましたし、英語学習のモチベーションや国際的な視点を保つのに役立ちました。
- ・コロナ禍で異文化交流や渡航が難しいと思い諦めていましたが、実際に行って得た経験には敵わないとはいえ多くのことを得ることができました。
- ・楽しくて、思ったよりもちゃんと留学で、ただの英語の授業じゃないところがよかったです。
- ・ディスカッション力がついたと思います。コミュニケーションをとることに抵抗がなくなりました

4. まとめ

2021年2月から3月にかけて行われた3つのオンラインプログラムが行なわれた。新型コロナ感染拡大の影響で海外渡航が難しくなっている状況でも、英語力を向上したい、国際経験を積みたいと考えている学生がいる。そのような学生の思いに全力で応えるため、充実したプログラム、及びサポートを提供できるよう尽力していきたい。

海外からの学生受入

1. 交換留学

新型コロナウイルス感染症の影響により、渡日することができなかったため、交換留学生らはオンラインにて本学の授業を受講しました。今年度の交換留学生数は以下のとおりでした。

2020年5月現在

- ・コンケン大学（タイ）1名
- ・外交学院（中国）1名
- ・西南交通大学（中国）3名
- ・リヨン第三大学（フランス）2名

2020年11月現在

- ・外交学院（中国）3名

2. 日本語・日本文化短期プログラム

例年、海外の交流協定校との関係を強化し、本学の国際化を推進することを目的として、日本語授業と日本文化体験で構成される3週間の日本語・日本文化研修プログラムを7月に実施していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。

III. 日本語教育・留学生サポート事業

留学生のための日本語教育および修学・生活上の指導・相談、外国人留学生向けイベントなどの外国人留学生支援にも力を注いでいます。

日本語教育

1. 日本語研修コース

国際交流センターにて開講している日本語研修コースについて、年次報告にて報告します。

2020 年度 日本語研修コースの報告

奥村 圭子・江崎 哲也・布村 猛・會田 篤敬

1. 日本語研修コース I と II の概要

日本語研修コースは、現国際交流センターの前身の留学生センターが設置された 2003 年度の後期に開講された。2003 年後期に「国費研究留学生向けの大学院前準備教育」のための日本語研修コース I、翌 2004 年後期に「日韓共同理工系学部留学生向けの準備教育」のための日本語研修コース II が始まった。研修コース I は「大学院や教員研修などの勉学生活に入るために基礎的な日本語力の習得をめざす」ことを目標にしており、研修コース II は「大学・日常生活を円滑に送るため、初級で学んだ知識を運用に結びつけ、読む・書く・聴く・話す、の四技能においてコミュニケーション力を中級レベルへ高めること」を目指しているが、いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、そして交流協定大学からの交換留学生も受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。これらの二つのコースは言語のみならず、文化、そして地域社会について学べる環境を提供しつつ、日本や山梨のよき理解者へと育成することを目指している。

2. 2020 年度 前期日本語研修コース I A と B

2020 年 2、3 月頃から、日本においても新型コロナウイルスの感染が広がり始め、それは留学生受入れ・派遣にも多大な影響を及ぼした。2020 年度に予定していた交換生の派遣・受入れが中止となったり、入学予定であった国費留学生や一般の留学生の渡日の目途がなかなか立たなかったりする状況の下、研修コースも 5 月初旬の連休が明けてからようやくスタートした。前期は、レベル別に週 9 コマの研修コース I の時間枠を A クラスに 3 コマ、B クラスに 6 コマを充てようと計画を立てた。

前期研修コース I 34 期 A (週 3 コマの予定であったが実際には 2 コマ提供)

受講生は、2020 年度前期から入学予定の中米からの国費留学生 1 名の予定であったが、あいにく国費留学生の新規入国が止められ、本人の入学も秋へと変更されたため、日本での勉学生活を円滑に始める準備を少しでも自国に居ながらできるよう、Zoom でのライブ配信で授業を行うこととした。そこにもう一名、医学部キャンパスの医学系博士課程の大学院生からオンラインの授業であれば医学部キャンパスからの移動の必要もないため是非参加したいとの申し出があり、居住地の現地時間と日本との時差を考慮し検討の結果、現地時間の午前 8 時から 9 時半、日本時間の午後 10 時から 11 時間半、週 1 コマを 2 回、当初 3 コマの予定を 2 コマに短縮し、自学用の課題を出しつつ進めた。

以下の教材を使用した。

主教材：『みんなの日本語初級 I・II 第 2 版本冊』1～32 課

副教材：『みんなの日本語初級 I・II 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級 I・II 第 2 版 標準問題集』

(いずれもスリーエーネットワーク)

授業時間の中では、新規語彙・文法項目の使い方を学び口頭練習を行うのみで、応用問題は次回までの課題と

したが、受講生の熱心な予習・復習と作文課題などへの取り組みにより、1課を1コマずつ、導入と練習の後はできる限り受講生同士の対話ができるような時間を取り、場面にあった発話ができるよう促した。6、7課ごとのテストは言語知識を問うものではなく、場面設定のある会話で運用力をみるタスクを与え、評価を行った。

前期研修コース I 34 期 B (週 6 コマ)

受講生は全員で5名、既に在学していた博士課程の大学院生で、全員2019年度に研修コース IA を受講したことがあり、指導教員からも研修コースへの参加について快諾を得ていた。研究や RA としての勤務時間の合間を縫って参加する学生も数名いたため、全員が揃うのは週1回3コマのみであったが、同じ立場であるためか互いを助け合い、遅れて授業に加わる学生も、何の問題もなく授業参加ができていた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材 1: 『改訂版 聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』

2: 『みんなの日本語初級 I・II 本冊』7~44 課

副教材: 『みんなの日本語初級 I・II 第2版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級 I・II 第2版 標準問題集』

(いずれもスリーエーネットワーク)

受講生全員が初級前半の修了者であったため、週1回機能シラバスを用いた主教材1を使用し、既習の言語知識を使いつつ、ある場面や状況で言いたいことをどのように伝えるか、そして話しかけられたらどのように答えるかを「考え」ながら発話する活動を取り入れた。これまで積んできた学習項目の中でも抜けているところ、誤りを見つけ直しながら進めていき、定着を目指したが、最初ロールプレイに物怖じしていたメンバーも後半には積極的に取り組み、短いやり取りから少しずつ長く、ユーモアも挟み会話をしている場面も多く見られるようになった。全員モチベーションが高く、研究室において、教授や日本人学生とのコミュニケーションを少しでも活発に行いたいという一心で参加をしていたようである。

3. 2020 年度 後期日本語研修コース I と II

2019年度までは、後期は日本語研修コース I と II をそれぞれ9コマと5コマの計13コマ提供していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大し、来日が遅れる学生が相当数いたため、開講時期を例年よりも1~2か月遅らせることになった。その一方で、文部科学省受託事業「山梨留学生就職促進プログラム」が2020年12月に始まったことにより、以下のように非常に充実した複数のコースを提供することが可能となった。

後期「【Normal】Japanese Intensive IB-a」、【Normal→Rapid】Japanese Intensive Starters I & II」、【Rapid, Online】Japanese Intensive Starters I & II」

これらのコースはいずれも本学大学院生を対象に2ヶ月あるいは3ヶ月で集中的に基礎的な日本語を学習するためのコースとして開講された。Normalコース7名、Normal→Rapidコース5名、Rapid, Onlineコース9名でスタートし、文法や語彙などの言語知識を集中的に学習すると同時に、複数名の日本語サポートSA (Student Assistantsの略。本学の学生を一時的に雇用した。) との会話練習を毎回30分取り入れることで、自然な言語運用を学ぶ機会を提供した。Normalコースは日本語能力検定N5合格レベル、Normal→Rapidコース、Rapid, Onlineコースは日本語能力検定N4合格レベルに到達することを目標とした。

コース	【Normal】 Japanese Intensive IB-a (研修コースIB-a) (Normal speed learning)	【Normal→Rapid】 Japanese Intensive Starters I & II (Normal speed learning →Rapid speed learning)	【Rapid, Online】 Japanese Intensive Starters I & II (Rapid speed learning, Online, 平日夜間と土曜午後)
対象	日本語の学習をほとんどしたことがない、あるいは文法の基礎をしっかりと作り上げたい学生		
到達目標	JLPT N5 合格	JLPT N4 合格	
期間	12月1日(火)～3月26日(金)		1月5日(火) ～3月26日(金)
授業時間帯 (12月中)	火曜 10:40-16:20 と 金曜 10:40-16:20 (合同クラス、Normal speed learning)		なし
授業時間帯 (1月から3月)	火曜 10:40-16:20 金曜 10:40-16:20 (Normal speed learning)	月曜 10:40-16:20 水曜 10:40-16:20 金曜 10:40-16:20 (Rapid speed learning)	月曜 18:50-22:00 火曜 18:50-22:00 水曜 18:50-22:00 木曜 18:50-22:00 金曜 18:50-22:00 土曜 13:10-16:20 (Rapid speed learning)
1週当たりのコマ数	<u>6コマ/週</u>	<u>6コマ/週</u> ↓ <u>9コマ/週</u>	<u>12コマ/週</u>
授業の形態	対面(12月中)→オンライン(1～3月)		オンライン
主な使用教材	『みんなの日本語初級I』 (L. 1-25)	『みんなの日本語初級I・II』 (L. 1-50)	
受講生	研究生、大学院生 計7名	研究生、大学院生 計5名	研究生、大学院生 計9名
単位	なし		

後期「Japanese Intensive IB-b」、「Japanese IntensiveII-a」、

「Japanese Intensive II-b」

これらのコースは、初級後半、または初級終了レベルの研究生、及び大学院生を対象として開講された。教材は、『みんなの日本語初級 II』、『まるごと 日本のことばと文化 初中級 A2/B1』、『WEEKLY J book1』を用い、

文法知識を蓄える一方で運用力を伸ばすことを目標とした。これらのコースの対象学生は計 4 名となったが、各々の日本語能力や都合に合わせて必要なものを受講してもらうというスタイルを採用した。開講時期にずれがあるのは、対象となる学生の来日時期や研究日程を考慮したためである。

コース	Japanese Intensive IB-b (研修コースIB-b)	Japanese Intensive II-a (研修コースII-a)	Japanese Intensive II-b (研修コースII-b)
対象	JLPT N5合格相当レベル (初級後半)	JLPT N4 合格相当レベル (初級終了から中級へのステップアップコース)	
到達目標	JLPT N4合格	JLPT N4～N3合格	
期間	12月3日(木) ～3月25日(木)	10月14日(水) ～2月3日(水)	11月6日(金) ～2月26日(金)
授業時間帯	木曜2～4限	水曜3、4限	金曜1、2限
1週当たりのコマ数	<u>3コマ/週</u>	<u>2コマ/週</u>	<u>2コマ/週</u>
授業の形態	対面		
主な使用教材	『みんなの日本語初級II』 (L. 33-50)	<i>Marugoto: Japanese language and culture Pre-Intermediate A2/B1</i>	<i>WEEKLY J book1</i>
受講生	研究生、大学院生 計4名		
単位	なし		

4. まとめ

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う未曾有の事態に見舞われたが、そんな状況下でも日本語教育を担当する教員が各自の役割を全うし、日本語研修コースを提供することができた。また、2020 年度は、文部科学省受託事業「山梨留学生就職促進プログラム」が開始され、山梨大学国際交流センターで提供する日本語研修コースの充実度を高めることができた 1 年でもあった。2021 年度も充実した日本語研修コースを継続して提供することができるよう尽力していきたい。

2. 日本語補講

日本語補講は、国際交流センターが提供する授業科目以外の日本語教室です。主として大学院生や研究生を対象とし、研究者またはその家族にも開かれたプログラムとなっています。実施状況について国際交流センター江崎哲也准教授の年次報告にて報告します。

日本語補講

江崎 哲也

1. 留学生を取り巻く状況と、本学の日本語教育

国際交流センターでは2019年度まで表1、表2に示すように、(1)学部留学生向け日本語科目を年間13コマ、(2)大学院入学前予備教育(集中日本語コース)を年間23コマ、また、(3)日中研究が忙しくてそれらの授業に出られない大学院生や研究生のためにV時限(16時30分～)以降に日本語補講を年間14コマ開講してきた。このように数多くの日本語の授業・補講を提供してきたのは、留学生が入学後できるだけ短期間のうちに日本語を習得し、専門の勉強や研究を支障なくできるようにするためであり、レベル別のクラスできめ細かく丁寧に指導する必要があるからである。また、本学の第3期中期目標中期計画において設定されている留学生受け入れ数値目標を達成し、さらに、文部科学省(2020)が述べているように、ポスト留学生30万人計画を見据えて、大学内で留学生の日本語能力を高め、日本国内の企業に就職させていくことが必要とされているためである。

表1 国際交流センター開講科目一覧(日本語科目・日本語補講のみ)

開講科目	コマ数/年度	おおよその日本語レベル * JLPT: 日本語能力試験	出席が必要な コマ数
(1) 学部留学生向け日本語科目	13(4レベル)	JLPT N2 以上 (日本語学習歴 600 時間以上)	1~2コマ/週
(2) 大学院入学前予備教育 (集中日本語コース)	23(2レベル)	入門期から JLPT N4	7~9コマ/週
(3) 日本語補講	14(4レベル) ただし授業回は 12回	入門期から JLPT N5(両キャンパス) JLPT N3(甲府キャンパス) JLPT N2(医学部キャンパス)	1~2コマ/週

表2 「日本語補講」一覧

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル (日本語学習歴)	クラスにおける 総学習時間
甲府 (年間計 8コマ提供)	K-A(入門1)	前期・後期	0-25 時間	18 時間(90 分×12 回)
	K-B(入門2)	前期・後期	15-50 時間	18 時間(90 分×12 回)
	K-C(初級1)	後期のみ	35-100 時間	18 時間(90 分×12 回)
	K-D(初級2)	前期のみ	50-100 時間	18 時間(90 分×12 回)
	K-E(論文作成・口頭発表)	前期・後期	450 時間以上	18 時間(90 分×12 回)
医学部 (年間計 6コマ相当 提供)	M-A(入門)	前期・後期	0-25 時間	12 時間(60 分×12 回)
	M-B(初級)	前期・後期	15-50 時間	12 時間(60 分×12 回)
	M-C(初中級)	前期・後期	35-100 時間	12 時間(60 分×12 回)
	K-E(論文指導・医療の日本語)	前期・後期	600 時間以上	18 時間(90 分×12 回)

2. 留学生の日本語補講受講希望調査 (2019年11月21日～11月28日実施)

上記のような状況を踏まえ、2020年度前期の日本語補講受講の希望をアンケートによって調査した(有効回答数27)。その結果、96.2%の受講生が「自分に合ったレベルのクラスがあるなら受講する」と回答した。甲府キャンパスでは日本語学習時間をできるだけ多く確保するために入門から入門～初級レベルの補講を4レベル開講してきたが、このうちK-Cは後期、K-Dは前期しか開講していなかった(表2参照)。これは人件費を節約するための苦肉の策であったが、K-Cクラスを前期にも開講することになったら受講したいかという問いに、K-Aクラス、K-Bクラスの受講生のうち実に16人(72.7%)が受講したいと回答した。また、K-A、K-B、K-Cクラス受講生のうち11人(40.7%)が2020年度前期のK-Dクラス受講を希望していた(図1参照)。このように大学院留学生から「日本語をもっと勉強したい」という切なる願いがあることにも関わらず、それに応えることができていない状態であった。無論、日本語を集中的に学ぶ「大学院入学前予備教育(表1(2))」に出席することも可能だが、このコースは週に最低7コマの出席が求められる大変厳しいものであるため、英語で学位取得を目指す大学院生には負担が大きすぎる。昨今の留学生施策を鑑み、入門～初級レベルの日本語補講を前期、後期ともに4レベル開講を大学に要求してそれが認められ、2020年度は2コマ増の計16コマを日本語補講として開講した。なお、2020年度はこれらすべてをオンラインで提供した。

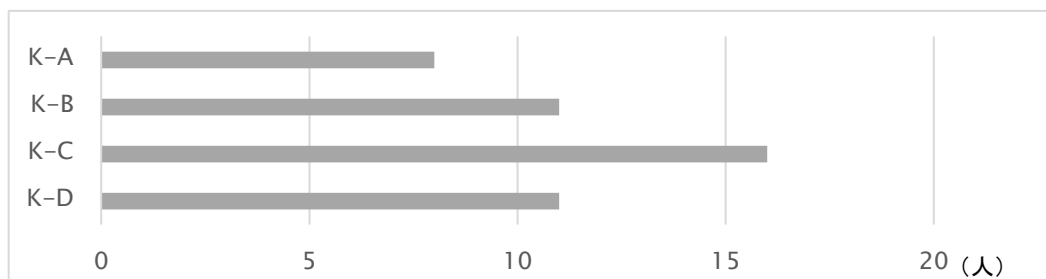


図1 2020年度前期受講を希望する日本語補講クラス

この日本語補講は、単位認定の対象にはならず、席が用意できる限りは、留学生の家族、研究者・研究員にも受講を認めている。2020年度は表3に示す通り甲府・医学部両キャンパスで4レベル4クラスを開講し、それぞれ前期・後期ごとに週1回12週にわたって展開された。

表3 「日本語補講」一覧

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル (日本語学習歴)	クラスにおける 総学習時間
甲府 (年間計 8コマ提供)	K-A(入門1)	前期・後期	0-25時間	18時間(90分×12回)
	K-B(入門2)	前期・後期	15-50時間	18時間(90分×12回)
	K-C(初級1)	<u>前期・後期</u>	35-100時間	18時間(90分×12回)
	K-D(初級2)	<u>前期・後期</u>	50-100時間	18時間(90分×12回)
	K-E(論文作成・口頭発表)	前期・後期	450時間以上	18時間(90分×12回)
医学部 (年間計 6コマ相当 提供)	M-A(入門)	前期・後期	0-25時間	12時間(60分×12回)
	M-B(初級)	前期・後期	15-50時間	12時間(60分×12回)
	M-C(初中級)	前期・後期	35-100時間	12時間(60分×12回)
	K-E(論文指導・医療の日本語)	前期・後期	600時間以上	18時間(90分×12回)

3. 2020 年度前期

2020年度前期の開講クラス、及び受講者は以下の表の通りである。

表4 2020 年度前期甲府キャンパスの各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門1	7	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第1課～第9課
入門2	5	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第10課～第18課
初級1	12	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第1課～第9課
初級2	13	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第10課～第18課
論文作成	15	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習

表5 2020 年度前期医学部キャンパスの各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門	5	『新装版 Basic Japanese for Students はかせ<1>留学生の日本語初級 45 時間』(スリーエーネットワーク)第1課～第8課
初級	3	『新装版 Basic Japanese for Students はかせ<1>, <2>留学生の日本語初級 45 時間』(スリーエーネットワーク)第9課～第16課
初中級	3	『新装版 Basic Japanese for Students はかせ<2>留学生の日本語初級 45 時間』(スリーエーネットワーク)第17課～
論文指導・医療の日本語	1	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

4. 2020 年度後期

2020 年度後期の開講クラス、及び受講者は以下の表の通りである。

表6 2020 年度後期甲府キャンパスの各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門1	25	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第1課～第9課
入門2	9	『まるごと 日本のことばと文化入門 A1 かつどう』 第10課～第18課
初級1	1	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第1課～第9課
初級2	3	『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 A2 かつどう』 第10課～第18課
論文作成	8	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習

表7 2020 年度後期医学部キャンパスの各クラスの申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門	2	『新装版 Basic Japanese for Students はかせ<1> 留学生の日本語初級 45 時間』(スリーエーネットワーク)第1課～第8課
初級	7	『新装版 Basic Japanese for Students はかせ<1>, <2>留学生の日本語初級 45 時間』(スリーエーネットワーク)第9課～第16課
初中級	1	『新装版 Basic Japanese for Students はかせ<2>留学生の日本語初級 45 時間』(スリーエーネットワーク)第17課～
論文指導・医療の日本語	2	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

5. 入門クラス等における使用教材の変更

2015 年度後期から、入門クラス等で使用するテキストを変更した。2015 年度前期まで入門から初級クラスで使用していた『20 時間のキャンパス日本語』（英語版・簡体字版）¹に代わり、甲府キャンパスでは『まるごと日本のことばと文化』（三修社）を、医学部キャンパスでは『新装版 Basic Japanese for Students はかせ 留学生の日本語初級 45 時間』（スリーエーネットワーク）を使用することとした。これは、キャンパスにより受講者のニーズが大きく異なっていること、受講者の学習スタイルが変化してきたこと等に対応するためである。また、2014 年度までの甲府キャンパスでは、たとえ着実に日本語を学習していたとしても同レベルのクラスを 2 期・2 回以上受講するケースが散見された。これはクラス間のレベルに大きな隔たりがあったためである。それを確実に解消し、入門 1→入門 2→初級 1（後期のみ開講）→初級 2（前期のみ開講）へとスムーズに上がれるよう設計した。これは JF 日本語教育スタンダードで言えば、A1 前半→A1 後半→A2 前半へと約 2 年かけて進むことを意味する。

6. 申し込み者数の変化と申し込み方法の変更

表 8 に 2014 年度から 2020 年度の日本語補講の申し込み者数の推移を示す。2014 年度までは甲府キャンパスで 3 クラス、医学部キャンパスで 5 クラスの日本語補講を開講していたが、医学部キャンパスの 1 クラス当たりの平均申し込み者数が甲府キャンパスを下回ったため、2015 年度から両キャンパスとも 4 クラスとした。また、2015 年度後期からは各キャンパスの受講者のニーズにより適合したテキストに変更し、入門期から初級までの連続性があるクラスを開講した。さらに、2019 年度後期に大学院の留学生が急増したことを受け、申し込み方法を web 申し込みに変更した。これらによって、2019 年度後期には日本語補講の申し込み者数が 89 人に上った。前述のように 2020 年度は甲府キャンパスのコマ数が 2 つ増加したため、申込者の増加が見込まれたが、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大したために、進学をあきらめざるを得ない学生もいたことから、後期は減少に転じた。

表 8 日本語補講の申し込み者数)の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲府キャンパス	18	12	13	17	17	32	15	15	15	40	28	81	52	46
医学部キャンパス	11	16	13	14	14	14	6	6	6	9	18	9	12	12
合計	29	28	26	31	31	46	37	57	21	49	46	89	64	58

甲府 3 クラス→ | →甲府 4 クラス

医学部 5 クラス→ | →医学部 4 クラス

共通テキスト→ | →異なるテキスト

| →Web 申し込み

¹ 「山梨大学 戦略的プロジェクト—教育関連プロジェクト—」に、2009 年度、2010 年度ともに採択され、支援を受けた。
 ・2009 年度プロジェクト名：「大学院留学生のための Survival Japanese テキスト作成」、プロジェクト代表者：奥村圭子
 ・2010 年度プロジェクト名：「大学院留学生のための Survival Japanese テキストの改訂—生活情報、中国語による文法解説の付加と e ラーニング教材への展開に向けて—」、プロジェクト代表者：川村隆明

7. まとめと今後の課題

2015年度から2020年度にかけて日本語補講に対して4つの非常に大きな変更（①受講希望者のニーズに合わせた両キャンパスのクラス数の変更、②使用テキストの変更、③各クラスのレベルに連続性を持たせたこと、④申し込みを紙ベースからwebに変更）を行ってきた。これらの改革と大学院留学生数の増加が相まって補講の申込者数は増加の一途をたどったが、2020年度の申し込み者数は合計122人と減少に転じた。なお、G-フィロス（本学のグローバル共創学習室）の「日本語サポート」が補講開講期間に行えなかったため、前年度まで行っていたG-フィロスを利用した実践的な練習は、行えなかった。

日本語補講の受講者の多くは、英語で研究する学生であるが、生活に必要な日本語の習得や大学院の授業を日本語で受講することを切望しており、一部は日本での就職も希望している。今後とも一層の日本語補講の充実を図り、大学院生や研究生などの日本語力の向上を目指して、彼らの日本での研究生生活をより充実したものにしていくことが求められる。また、2020年度に採択された「山梨留学生就職促進プログラム」との連携もしつつ、今後さらなる改革が求められる。

■参考文献

文部科学省(2018) 「ポスト留学生 30 万人計画を見据えた留学生政策」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/05/28/1404629_4_1.pdf (2020年8月8日参照)

山梨大学山梨留学生就職促進プログラム事務局 (2020) 「山梨留学生就職促進プログラム」

<https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/ircs/> (2020年8月8日参照)

3. 日本語・日本事情教育

国際交流センターでは、主に学部留学生を対象として、日本語・日本語関連科目も開講しています。国際交流センター江崎哲也准教授の年次報告にて報告します。

日本語・日本語関連科目

江崎 哲也

主に学部留学生を対象として開講されている、国際交流センターが提供する全学共通教育科目の日本語・日本語関連科目について 2020 年度の報告を行う。

1. 開講科目

2020 年度開講の日本語・日本語関連科目は以下の通りである。科目名の I は前期、II は後期開講であることを指す。

前期（計 9 科目）

日本語初中級 I A、日本語初中級 I B、日本語中級 I A、日本語中級 I B、
日本語中上級 I、日本語上級 I、日本語演習 A、
日本事情 I、Language & Communication across Cultures

後期（計 8 科目）

日本語初中級 II A、日本語初中級 II B、日本語中級 II A、日本語中級 II B、
日本語中上級 II、日本語上級 II、
日本事情 II、異文化間コミュニケーション B

クラス分けは、前期・後期の履修申告の直前に行われたプレイスメントテストの結果に基づいて行った。レベルは初中級、中級、中上級、上級の 4 レベルとし、演習²は中級以上の学生を対象とした（図 1）。

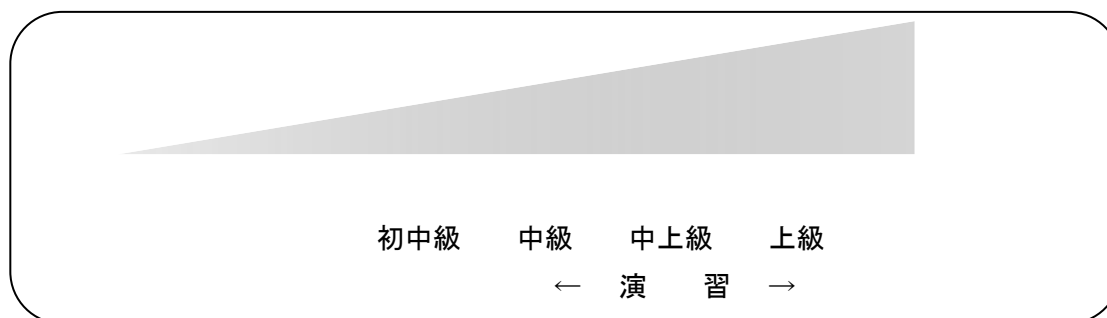


図1 日本語のレベル

各科目の受講生の学年、身分の内訳は、表 1 の通りである。なお、表中の NNS とは留学生、及び日本語を母語としない（あるいは日本語を第一言語としない）学生を指し、NS とは日本語を母語とする（あるいは日本語を第一言語とする）学生を指す。

² 「日本語演習」は口頭発表能力を向上させることを目的とした科目であるが、発表のテーマについては特に与えられず、テーマ選びから受講生自ら行わなければならないため、「中級以上、かつ学部 2 年生以上」という制限を設けている。しかしながら、他の授業との兼ね合いで、前期に受けられる日本語科目がない場合に限り、1 年生の受講も認めている。

表1 2020年度 日本語・日本語関連科目の受講生³

		受講生 総数	学年・身分別にみた受講生						研究生・ 教員研修 生等
			1年	2年	3年	4年	交換生	院生	
初中級ⅠA	NNS	5					3	1	1
初中級ⅡA	NNS	11	6	1				2	2
初中級ⅠB	NNS	13	2	5			4		2
初中級ⅡB	NNS	10	4					2	4
中級ⅠA	NNS	13	8	2			1		2
中級ⅡA	NNS	11	3				3	2	3
中級ⅠB	NNS	18	10	2			3		3
中級ⅡB	NNS	18	9	1			3	2	3
中上級Ⅰ	NNS	12	7	2			3		
中上級Ⅱ	NNS	5	3	2					
上級Ⅰ	NNS	6		1	1		3		1
上級Ⅱ	NNS	4	2	2					
演習A	NNS	6	2	2					2
日本事情Ⅰ	NNS	17	10				6		1
	NS	20	15	2	2	1			
日本事情Ⅱ	NNS	11	8				3		
	NS	22	18	3	1				
Language & Communication across Cultures	NNS	11	4	2	2		3		
	NS	24	20	2		2			
異文化間 コミュニケーション B	NNS	11	11						
	NS	17	12	4		1			

表2に日本語・日本語関連科目の受講生数の推移を示す。日本語科目（初中級、中級、中上級、上級、演習）の受講生数（延べ人数）は、2014年度が113人で、2015年度が98人と減少したが、2016年度は122人、2017年度は128人と徐々に増加していたものの、2018年度は計105人と再び減少に転じていた。しかし、2019年度は128人、2020年度は132人と再び増加傾向に転じた。GPAを強く意識しているためか、卒業要件に必要な日本語科目の履修が終わったと思われる学部3・4年生の受講生が少ない傾向は続いている。一方、研究生、大学院生については、少しでも日本語力を高めるべく、積極的に日本語の授業に参加する姿が見られた。

日本語関連科目（日本事情、Intercultural Understanding through Images、Language & Communication across Cultures、異文化間コミュニケーション）は、授業の性質上、受講生数の上限を定めているが、2014年度は163人（うち日本語非母語話者43人）、2015年度は124人（うち日本語非母語話者43人）、2016年度は126人（うち日本語非母語話者42人）、2017年度は141人（うち日本語非母語話者50人）、2018年度は183人（うち日本語母語話者104人）と増加傾向にあったものの、2019年度は142人（うち日本語非母語話者は61人）、2020年度は133人（うち日本語非母語話者は50人）と減少傾向に転じた。今後とも共修授業に興味を持たせるよう、働きかけていきたい。

³ ここでいう受講生は、単位取得希望学生（学部生・交換留学生）以外の、大学院生や研究生なども含めている。

表2 日本語・日本語関連科目の受講生数の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度		2020 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語科目 (NNS)	74	39	57	41	62	60	72	56	57	48	72	56	73	59
日本語関連科目 (NNS)	19	24	19	24	19	23	21	29	58	21	28	33	28	22
日本語関連科目(NS)	65	55	33	48	35	49	42	49	51	53	41	40	44	39
合計	158	118	109	113	116	132	135	134	166	122	141	129	145	120

2. 2020 年度の開講記録

各科目は、以下のような目的・内容で教室活動が行われた（表3参照）。2019 年度までは本学の G-フィロス（グローバル共創学習室）の日本語学習サポートサービスを受けた上で課題を提出するよう促していたが、2020 年度は授業開講時期に日本語学習サポートサービスを実施できなかったため、そのようなタスクは課さなかった。

表3 日本語・日本語関連科目の概要

授業タイトル (主な内容)	担当	主な使用テキスト、参考書	内容				
			読む	書く	聞く	話す	文法
初中級 I A (会話と文法)	仲本	『J.Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)	△	△	◎	◎	○
初中級 II A (文法の復習と会話)	江崎	『J.Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)	△	○	◎	◎	○
初中級 I B (作文)	江崎	『大学・大学院 留学生の日本語② 作文編』(アルク)	△	◎	△	△	○
初中級 II B (少し専門的な文章の読み方)	廣居	『改訂版大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』(アルク)	◎	△	△	△	○
中級 I A (読解)	江崎	『改訂版大学・大学院 留学生の日本語 ③論文読解編』(アルク)	◎	△	△	△	○
中級 II A (読解、意見のまとめ方)	大塚	『中・上級日本語教科書 日本への招待 テキスト』(東京大学出版会; 第2版)	◎	○	△	○	○
中級 I B (場面や相手に沿った適切な話し方)	伊藤	『日本語上級話者への道—きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク)	△	○	◎	◎	○
中級 II B	伊藤	『小論文への 12 のステップ—中級	△	◎	△	△	○

(作文)		日本語学習者対象』(スリーエーネットワーク)						
中上級 I (会話・聴解・発表)	奥村	『中上級学習者のための日本語会話』(スリーエーネットワーク)	△	△	◎	◎	△	
中上級 II (論理的な文章の書き方)	仲本	『大学・大学院 留学生の日本語④ 論文作成編』(アルク)	○	◎	△	△	○	
上級 I (レポート・論文の書き方)	江崎	『論文ワークブック』(くろしお出版)	△	◎	△	△	○	
上級 II (発表のし方と、新聞記事などの資料の読み方)	江崎	『トピックによる日本語総合演習 上級』、『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集』(スリーエーネットワーク)	○	○	◎	◎	△	
演習 A (発表のし方)	江崎	『大学生のための日本語—効果的学習のために』(産業能率大学出版部)	△	△	○	◎	△	
日本事情 I	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』(大和書房)	日本人の学生と一緒に、日本の文化や日本事情を勉強する授業。文化や社会について学びながら、日本語力を伸ばす。テーマに基づくグループ・ディスカッションを行い、各国・地域や家庭の習慣、文化について紹介しあう。 (I と II は別内容)					
日本事情 II	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』(大和書房)						
Intercultural Understanding through Images	奥村ほか	-(授業内指示、自主作成教材)	Students will be given an opportunity to both reflect on their own cultures and gain an understanding of other cultures through interaction with classmates. Through this interaction, students will recognize the limits of their own cultural frames and will be exposed to diverse systems of value and logic.					
Language & Communication across Cultures	奥村	-(授業内指示、自主作成教材)	This class aims to equip students to understand the role of language and communication across cultures highlighting the importance of intercultural communication and language. In the class consisting of both international and Japanese students, all the interactive activities					

			are conducted in English.
異文化間コミュニケーション	奥村	-(授業内指示、自主作成教材)	日本人の学生と一緒に、自分の文化以外の文化をどう理解するか、その文化をもつ人とどのようにコミュニケーションをするかを勉強する授業。

*「内容」の項目の記号は、◎：よく勉強する(よく取り上げる/扱う)、○：勉強する(取り上げる/扱う)

△：あまり勉強しない(あまり取り上げない/扱わない)ということを表す。

3. まとめと今後の課題

2020年度の日本語科目の日本語非母語話者の総受講生数は132人であり、前年度に比べて3%増加した。

一方、日本語関連科目(「日本事情」、「異文化間コミュニケーション」、「Language and Communication across Cultures」)は、日本語非母語話者の受講生数が減少したが、日本語母語話者の受講生数はやや増加した。入学当初から異なる文化に興味を持てるよう、これらの科目の履修の重要性を母語話者、非母語話者双方に訴えつけていきたい。また今後も共修型授業を通して、学生の異文化理解力を高めていき、学内の国際化にもつなげていきたい。

以前から行っている「G-フィロス」の利用を、2020年度も13科目ある日本語科目すべてに推奨・義務付ける予定であったが、授業が行われている期間に「日本語サポート」を行うことができなかったため、2021年度はオンラインで日本語非母語話者の日本語学習のサポートを行い、課題の一部をG-フィロスで行うような仕組みを再開したい。

留学生サポート

1. 留学生支援・相談、文化交流

国際交流センターでは、留学生の生活・就学に関する相談・指導を行うだけでなく、文化体験・交流や講演会等、留学生にとって有益な行事等を提供することによって、留学生が日本での生活に馴染み、学業に取り組める環境を整えるための支援も行っています。これら留学生支援・相談、文化交流について、国際交流センター伊藤孝恵准教授の年次報告にて、報告します。

留学生支援・相談、文化交流について

伊藤 孝恵

I. 指導・相談

山梨大学における留学生のための相談体制として、国際交流センターに留学生相談室が設置されているほか、国際交流センターの各教員がそれぞれオフィス・アワーを設けている。国際交流センターでは、留学生のみならず、海外留学や国際交流、G-フィロスに関心のある学生や、日本語教育に関する相談で訪れる学生にも対応している。

本稿では、そのうち、2020年度に留学生相談室で対応した主だった指導・相談、及び国際交流センターや国際部の一部支援行事や交流行事について報告する。

1. 生活、修学、進路相談

2020年度は、新型コロナウイルス感染に伴う不安やストレスを含めた心身の健康状態が懸念されたため、新年度に入った直後に、新入留学生全員に対し、留学生相談室より様子を尋ねるメールを送った。新入留学生のうち、特に研究室に配属されていない学部生は、周囲に知り合いも少なく不安も大きいと想像されることから、全体メールに加え、一人一人に連絡をとり、心身の状態や困っていることの有無などを尋ねた。また、国際企画課からは、CNSで全留学生に対する健康状態のアンケート調査が行われ、ケアが必要な留学生には留学生相談室が対応した。

在学生からは、特に一時国をされていて再入国できない留学生からの不安や手続き上の相談が多く寄せられた。たとえば、ビザ延長や履修登録の取り消し、授業料免除などの申請や手続きを、母国においてできるのかどうか、どのようにすればいいのかといった相談であり、入管や関係部署への問い合わせなどのほか、必要に応じて留学生に替わり、留学生相談担当教員が、書類を取り寄せるなどの支援も行った。

また、オンライン授業におけるネット環境の不具合や、海外での指定教科書の入手困難な状態、自分だけが対面授業を受けられないことなどによる、授業理解や成績への影響を危惧する不安も多かった。クラスメイトの様子が分からない状況の中で、自分だけが勉強を難しく感じているのではないかという不安に駆られると訴える学生もいた。このような留学生に対して、学科のクラス担任の先生や授業担当の先生への連絡・相談などを取りながら、実際面・心理面の双方において、状況が落ち着くまでの間、継続的に支援を行った。

ただ、オンライン授業で、学生間の情報交換や協働学習の場が少なかったこともあり、例年以上に、学習に対する不安が多かった。特に実技系の課題やレポートなどは、分からないことがあっても、オンラインでは授業担当の先生にも質問しづらいとして、問題が未解決のまま不安とともに募っていく感じであった。そのような留学生に対し、同学科の先輩留学生を紹介したところ、先輩が協力的に学習支援をしてくれ、無事に試験や課題を乗り越えられたと安堵する声が聞かれた。

日本語を母語とせず異文化を背景にもつ留学生が、クラスで日本人学生と親密な関係を築くことには、もともと

と日本人学生以上に困難が多いが、コロナ禍という交流が制限された環境下においては、より一層クラスで孤立感を深める可能性があり、成績不振や心身の健康への支障に繋がる恐れがある。そのため、留学生が気軽に学習や生活における相談ができる、学科内での居場所作りや人的リソースの確保が重要であることを改めて実感した。

その他の相談としては、複数名の留学生から、研究が進まず、卒業や修了できるかどうかを心配する相談が寄せられた。このような相談を毎年受ける中で、研究が進まない大きな要因の一つに、指導教員とのコミュニケーション不足が見える。分からないことがあったり、いい結果が出ない時などの問題は、研究を行う上で当然遭遇する通過点のようなものだが、その際に、留学生が先生に叱責されるのではないかと委縮してしまい、問題を一人で抱えたまま指導教員への連絡や相談が滞ってしまうケースが非常に多いと感じている。なかには、ストレスのあまり心身の不調をきたしたため保健管理センターに連れて行き、その後専門医にかかる学生もいたが、留学生相談室でも継続的に様子を見守り続け、症状の回復に至った。

日本での就職に関しては、就職ガイダンスやセミナーを行っても、最終的にエントリーシートや面接の段階になると、個別性を伴うため、一人一人に対し、自己理解や企業理解を深めながら、とともにエントリーシートを作成していった。

2. 学部新入生個別面談

毎年5月の大型連休明けから、学部新入留学生を対象に30分～1時間程度の個人面談を実施している。入学当初の不安な気持ちや問題があれば、話してリラックスしてもらい、各々の留学生に必要な情報を提供したりするなどして、入学期の戸惑いや不安を少しでも取り除き、スムーズに大学生活をスタートできるようにしている。知りたいことや困っていることは個々人によって異なり、また、誰に尋ねたらいいかわからないことや誰かに聞くことのほどではないと思われる疑問も、このように個別に話す機会を設けることで、問題を解消したり適切な窓口を紹介したりすることが可能となっている。

ほかにも、気になる留学生を把握しその後も様子を見守っていくことや、相談室を知ってもらい、相談担当教員と少しでも話しやすい関係づくりを行う意図もある。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う不安や生活の不便などを訴える相談が多く寄せられた。ほとんどの学部新入留学生が、本学に知人・友人がおらず、一日部屋で授業を受けて一人で過ごしており、話し相手は、母国の家族や日本語学校や高校での友人であった。

勉強では、ネットで調べたり、母語のYouTubeで学んだり、他大学に留学した友人に聞くなどして問題を解決していた。また、日本に入学できずに母国で受講している留学生からは、海外で授業の指定教材が入手困難な状況が悩みとして挙げられた。オンライン受講については概ね問題ないと言う留学生がほとんどであったが、会ったことのない先生には授業の質問をしづらいと言う人も少なくなかった。

3. 学部2年次・3年次学修・健康チェック

11月に、全学部留学生に対する学修と健康のアンケート調査を行った。これは、学部新入生だけでなく、2、3、4年次と学年が上がっても、それぞれのステージならではの悩みや不安があるため、数年前から毎年行い、留学生を卒業まで見守り続けている。例年は、教室に集まってもらって調査用紙に記入してもらいながら様子を確認しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、Google Formsによるオンライン調査とした。そして、複数科目、あるいは必修科目を落としたり、心身の不調や不安がある留学生には、オンラインで個別面談を行い、それぞれに必要な支援を行った。2020年度前期は、新型コロナウイルス感染対策で追われていたため、後期に実施する形となったが、次年度からは前期に実施して問題を早期に拾い出し、解決につなげていきたいと思っている。

II . 支援

1. 留学生チューター制度 / 留学生サポーター制度

従来、入学して一年目の留学生に対しては、基本的に身分を問わず修学面や生活面のサポートを担う上級学生のチューターが配置されていた。しかし、学部新入生については、クラスの中に共に学び合い助け合う友人関係を構築していくことが4年間の大学生活において重要であることから、2014年度は、同学年・同学科の日本人学生をチューターとする制度に改め、2015年度からは謝金を伴わないボランティア活動として単位化した。

一方、大学院生、研究生、交換留学生については、従来通り、指導教員の指導の下で、同じ研究室の上級生や留学生との交流に関心のある学生が、チューターとして研究や勉学、日常生活における個別の相談・補助を行ってきた。しかし、大学院生については、留学生も研究室の仲間の一人として研究室全体で助け合っていくことが現実的であることから、2019年度からは、大学院生に対しては「留学生サポーター制度」を新たに導入した。これは、活動時期を4、5月とし、活動時間を10時間以内と限定した上で、学生サポーターに、入学当初の市役所や履修等の諸手続きの補助を行ってもらおうというものである。市役所や郵便局等での手続きは、煩瑣でサポートする側の負担も大きい。そのため、限定的であるとはいえ、入学当初の煩瑣な諸手続きをサポートしてくれる学生に謝金を支払うこの「留学生サポーター制度」は、大学側の留学生支援の一環として導入した。

大学院の入試を控える研究生と交換留学生については、引き続き、チューター制度を継続した。

前期は、6月18日、後期は10月29日のそれぞれ昼休みにオンラインで説明会を開き、国際企画課の職員からの手続きに関する説明の後、留学生相談室より、活動方法や活動内容、活動する際の留意点などを、資料を基に説明した。

また、成績不振や勉学に不安のある学部2年次以上の留学生に対しては、クラス担任の教員に面談してもらい、修学状況を同学年・同学科の学生をチューターとして配置し、当該留学生にとって難しい授業の勉強や課題作成の補助などをしてもらっている。この制度は2014年度から導入し、2020度は一名の留学生がこの制度を利用して、クラスメイトの学生による学習補助を受けた。

チューターによる学習支援の対象となった2年次以上の留学生には、各学期初めに、留学生との個別面談で修学状況を確認し、留学生相談室で留学生とそのチューターと話し合いながら、その留学生に合った支援を一緒に考えてもらっている。

また、いずれのチューターにも、チューター活動中での問題等をチューター学生自身が抱え込まないように、CNSのチューターコミュニティにおいて、気軽に相談できる窓口として留学生相談室を案内している。

2. 学部一年次外国人留学生交流パートナー制度

学部一年次の留学生には、従来からのチューターに替わり、自薦、あるいはクラス担任の先生の推薦により、同じクラスメイトの日本人学生が、留学生の交流パートナーとなっている。留学生のクラス内での仲間づくり・居場所づくりと学生間の協働学習の促進が目的である。登録された日本人学生は、要件を満たせば、自発的教養科目（ボランティア活動）の1～2単位を取得できる。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での交流行事は全て見合わせ、オンラインによる交流会を行うのみとなった。

6月5日と7月18日、それぞれ18時からZOOMによる交流会を開催し、留学生8名とその交流パートナー10名の計18名が参加した。初回は交流パートナー制度の全体説明を行い、2回の交流会とも、各学科に分かれ、自己紹介、及び互いのことを知り合うディスカッションを行い、楽しむ様子が見られた。しかし、ほとんどの授業がオンライン受講のため、教室で会い、授業後に言葉を交わす機会がなく、このような交流の場を一時的に設けても、その後の交流があまり進まないグループもあったようである。

大学としては、学生の出会いの場や交流のきっかけづくりの場を提供し、その後の交流を多少なりとも伴走し

て支援することはできても、関係が親密になっていくのには、やはり日々の学生同士の交流次第であると思う。パートナー探しの際には、各学科の一年次のクラス担任の先生方にご尽力いただいたが、学科によってはクラス内で LINE グループを作るなどして学生間の関係作りに工夫されているところもあり、そのようなクラスでは比較的パートナーがスムーズに決まり、ある程度の交流はできたようだが、なかにはパートナーさえ見つからない学科もあった。今後も、留学生とクラスメイトの日本人学生との関係作りには、国際交流センターだけでなく、各学科のクラス担任の先生のご配慮やご協力が必要であると痛感している。

3. 国際交流会館

2020年度は、新型コロナウイルス感染に伴う不安やストレスを含めた心身の健康状態が懸念され、国際交流会館、及びその ANNEX と甲府甲斐路分館の全居住者を対象とした緊急の健康調査で、ストレスを感じていたり、健康上の不安を訴える者に対しては、個人面談をし、ケアを行った。居住者には手洗い・除菌の徹底を呼び掛けるなど感染予防に努め、国際交流会館内でのクラスター発生を防いだ。

4. 留学生のための防災教室

新型コロナウイルス感染拡大により、開催を見合わせた。

5. 留学生のための防犯講話

12月10日16時半～17時半、山梨県警察本部の警察官を招いて留学生のための防犯講話をオンラインで開催し、100名以上の留学生が参加した。授業がオンラインで行われている状況で、参加の周知が難しかったにもかかわらず、教室での開催時以上の参加者が集まった。

講話では、空き巣や自転車・バイクの盗難、痴漢、危険ドラッグ、交通ルールと自動車・自転車保険、警察への通報、就労制限と在留カード、ハザードマップの確認や災害への日頃の備え、Jアラートの紹介といった多岐にわたる内容について、一通り説明があった。

警察の方が英訳付きのパワーポイントを使って、分かりやすく説明してくださり、国際企画課の職員が英語で通訳し、留学生が十分理解できるよう努めた。

例年では、講話の後で警察の方から反射板などの防犯グッズが留学生一人一人に手渡されるのだが、この年は感染予防のため、後日、国際企画課に防犯グッズを取りに来てもらった。新型コロナウイルス感染が収まらない中で、開催自体を見送ることも考えられたが、警察の方とオンライン開催に向けて話し合い、結果として多くの留学生に日本で安全・安心に暮らす上での心構えを伝えることができた。また、オンライン開催だと留学生が参加しやすいことも分かり、今後の行事開催の参考となった。

6. 留学生の就職支援

7月10日の昼休みに、大学・大学院を卒業・修了後に日本での就職を希望している留学生を対象に「留学生のための就職ガイダンス」をオンラインで開催し、修士1年生を中心に8名の留学生が参加した。毎年、このガイダンスにはキャリアセンターの協力を得て、キャリアアドバイザーから、日本での就職活動のスケジュールとポイント、キャリアセンターの利用方法を説明してもらっている。

令和2年11月から文部科学省委託事業「山梨留学生就職促進プログラム」に採択されたことに伴い（～令和5年3月）、これまで後期に行ってきた就職支援・指導関連のガイダンスやセミナー等を拡大して、プログラムの一環として行うこととなった。留学生相談室では、全留学生に対するプログラム案内の周知と、プログラム参加のための就職意思の確認面談を、プログラム参加希望者一人一人に行ったほか、プログラムに関する学生への連絡や問い合わせ、相談に随時対応し、留学生がプログラムに十分参加できるよう努めた。

Ⅲ．文化交流

例年行われてきた「ホームステイ/ホームビジット」「留学生の実地見学旅行」「岩窪自治会との地域餅つき会」「留学生の華道体験」といった文化交流関連の行事は、新型コロナウイルス感染拡大により、中止となった。

2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）

本学は令和2年度から文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の一環として「山梨留学生就職促進プログラム」を実施しています。以下は令和2年度におけるプログラムの活動報告です。

山梨留学生就職促進プログラム

― 活動の概要と令和2年度の取組状況 ―

布村 猛・伊藤 孝恵

1 「山梨留学生就職促進プログラム」の概要

本章においては、令和2年度の活動報告をするに当たり、プログラム全体の概要、目的を明確にする。そのうえで、令和2年度における活動に注目し、どのような目的でどのような活動を実施したかを述べる。

1.1 山梨留学生就職促進プログラムの目的

本学は、『地域の中核・世界の人材』を旗標に、第三期中期計画（平成28年度～令和3年度）に従って、海外、特にアジアから多数の留学生を受け入れ、エネルギーや医工学分野の融合研究を積極的に推進してきた。令和元年度からはダブルディグリー制度を活用した、AI、IoT、ロボティクス分野の充実が顕著であり、令和2年8月現在、情報系の院生が大学院修士課程の41%を占めている。その一方で、地域に目を向けると、基幹産業であるロボティクスや機械電子工業は深刻な人手不足に苛まれている。このような地域のニーズに応えるべく、本学では、地域未来創造センターが平成27年に文部科学省から地方創生推進事業(COC+)を受託し、『地域の中核』を担う人材を定着させるキャリア教育カリキュラムを、本学並びに県内10大学向けに整備し、県内自治体や企業との密接な連携を確立してきた。これに加えて、本学国際交流センターは、留学生向けに充実した日本語及び日本文化・日本事情教育プログラムを提供するとともに、平成30年度には留学生指導教員が総務省キャリアコンサルタントの国家資格を取得し、個別の就職面談を実施することにより、令和元年度には卒業・修了留学生の国内就職率45.7%を達成している。そこで、両センターが提携し、山梨県・甲府市・県内企業体と産学官三位一体のコンソーシアムを構成することにより、独自の「イノベーション・研究駆動留学生就職促進プログラム」を提案し、留学生人材による地域産業の問題解決を図ると同時に、キャリア教育の組織化による国内就職率のさらなる向上と他大学への波及効果を狙うことを目的とする。

1.2 プログラムの中心となる2つのトラック

本節では、プログラムの特徴である2つのトラックと教育における3本の柱についてその活動の内容に触れながら紹介をする。

本プログラムの最大の特長は、下図に示すとおり、科目の新設・拡充により日本語、コミュニケーション、キャリアの各教育カリキュラムを整備し、地域に根差したイノベーション（以下、「イノベーション駆動トラック」）あるいは共同研究（以下「研究駆動トラック」）を通して、学びを積極的に実践に移す場を提供し、留学生の県内外企業への就職へつなげることにある。「イノベーション駆動トラック」は、入学時にすでに日本語能力がN2レベルに達している留学生を対象とし、COC+のフューチャーサーチにおいて、コンソーシアムが用意する実課題に対するソリューションを提案させ、マッチングした企業のサポートを得ながら、提案ソリューションを実現

させる。一方「研究駆動トラック」は、英語対応コースに入学する大学院生を対象とし、入学時に最低でも N4 レベルの日本語技能を有してもらうため、渡日前に半年間 300 時間の日本語強化コースを提供するとともに、入学後も夜間や土曜日を利用して時間外の集中強化を施し、修了時には N2 レベルの技能を保証する。そのうえで、AI、IOT、ロボティクス分野を中心に、学域の所属研究室と企業との共同研究に参加させ、顧客への訪問や月例ミーティングでの日本語プレゼンや他部署とのディスカッションを密に実践させる。いずれのトラックにおいても、学部生は 3 年次、大学院生は修士 1 年次に、それぞれ 1 ヶ月間のインターンシップにも参加させる。以上が、本プログラムの中心となる 2 つのトラックである。

1.3 プログラムを支える 3 本の柱

次に教育における 3 本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」について述べる。

1.3.1 日本語教育

まず、「日本語教育」について本学は、第三期中期計画に従って、アジアをはじめとする諸外国から優秀な留学生の受入れ拡大に取り組んできた。それに合わせて、英語対応コースの漸増も含め、カリキュラムのグローバル化も進めてきた。このような環境整備のなか、留学生のうち実に 63%は大学院生であり、日夜各自の研究に専念できている。しかしながらその 7 割以上は、ビジネス日本語はもとより、修了時においても日本語はほぼ 0 レベルのままに等しいという課題がある。一方、学部を目を向けると、就学前から日常生活に不自由のない程度の日本語能力は有しているものの、修学後に部活動やインターンシップに参加する機会が圧倒的に少なく、日本のコミュニティやビジネスにつながるレベルへのスキルアップには至っていないという課題がある。これらの課題を解決するために、まず、英語対応コースに入学予定の大学院生については、入学時に N4 レベルに到達できるように、渡日前に半年間日本文化・日本事情を題材としながら 300 時間の日本語強化コースをオンラインで提供する。さらに入学後も、夜間と土曜日を利用して計 300 時間の集中強化を施し、修了時には N2 レベルを保証する。一方、入学時 N2 有資格者には、N1 レベルにスキルアップする既設の日本語カリキュラムを利用させる。以上が「日本語教育」の概要である。

1.3.2 キャリア教育

次に「キャリア教育」についてであるが、本学では共通教育科目として複数キャリア教育科目が開講されている。これらは選択科目であるため、これまでは、自分のキャリアデザインに関心の高い留学生が履修するのみで、国際交流センターが行うキャリア教育との連携は取られてこなかった。また、地域人材養成センター（旧 地域未来創造センター）の「未来計画研究社」が主催する「Mirai プロジェクト」には、参加企業・団体と学生が各プロジェクトに協働で取り組んで成果を発表するプロジェクト型の授業科目「フューチャーサーチ」がある。学生は企業とのプロジェクトへの取り組みを通じて、企業を知り、自分が将来働くイメージを形成していくことを目指している。しかし、これまでは本学の留学生の参加はなかった。

一方、国際交流センターでは、キャリアコンサルタントの国家資格を有する日本語教員が、個別面談等を通してキャリア指導を行うとともに、長年、本学のキャリアセンターとの共同で就職ガイダンスを開催してきたほか、就職相談会や就職セミナー等も開くなど、留学生に特化したキャリア教育を行ってきた。しかし、企業連携を含む連携体制が整っておらず、学内外の教育リソースを十分活用しきれずにいた。また、留学生が企業関係者と接する機会がなかったため、日本の企業文化理解や日本企業で働くイメージ作りが十分できなかったという課題があった。

そこで、本プログラムにおいては、学部生のうち、特に低学年の学生に対しては、本学で開講されている「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」のいずれかの科目を履修させ、履修できない大学院生等に対しては、国際交流センターでこれらと関連する内容のキャリア教育を行う。これにより、本格的な就職活動に入る前の段

階から、留学生が自己の特性を知り、仕事に対する理解をもつことで、キャリアビジョンを描けるようにし、スムーズに就職活動準備に取り掛かれるようにする。

また、「フューチャーサーチ」への参加も、本プログラムで積極的に勧め、地域人材養成センターと連携して、留学生の指導・支援にあたる。これにより、留学生が企業とともに主体的に地域のプロジェクトに関わることで、企業関係者との交流の機会がもてるだけでなく、県内の観光や産業への理解・関心、ひいては県内企業への就職へとつながることが期待できる。

また、学部3年生、修士1年生の留学生に向けては、自己分析や業界研究、企業研究などのセミナーやワークショップを行いエントリーシート作成等につなげるほか、筆記試験対策や面接対策といった実践対策も講じていく。

研究駆動トラックではメンターの役割を担う共同研究者を割り当て、その交流を通してキャリアについて真剣に考えられるような機会を提供する。以上が「キャリア教育」の概要である。

1.3.3 企業理解教育

3つ目に「企業理解教育」についてであるが、日本企業で働く上で、日本の企業文化や日本人の価値観、日本の慣習に対する理解、及び留学生にとって日本文化という異文化を理解するマインドの獲得が肝要であると考えられる。

そのため、本プログラムにおいては、学部生のうち、特に低学年の学生に対しては、まず、日本文化理解や異文化理解に関する本学の共通教育科目である、「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」「Language and Communication」のいずれかを履修させる。これにより、留学生が在学中の早い時期に日本文化を理解することで、今後の大学生活やアルバイトなどで日本人との間で良好な人間関係を築き、より日本社会に適応していくことを期待している。

企業文化理解のためには、コンソーシアムの企業・団体から講師を派遣してもらい、日本の企業文化に関するセミナーのほか、卒業留学生から日本企業で働く様子について講演してもらい就職体験談会も開催し、留学生に対し日本の企業文化の理解を図る。このような企業担当者や企業で働く先輩から直接聞く話は、リアリティをもって留学生に理解されやすく、効果的な企業文化教育となると思われる。

留学生と企業との出会いの場という意味においては、インターンシップや企業見学会は、最たるものといえる。ただし、令和2年度は、本プログラムの実質スタートが12月ないし1月であり、数か月での実施は不可能であるため、コンソーシアム加入企業からの協力を得て、企業見学会を着実に実施する。以上が「企業理解教育」の概要である。

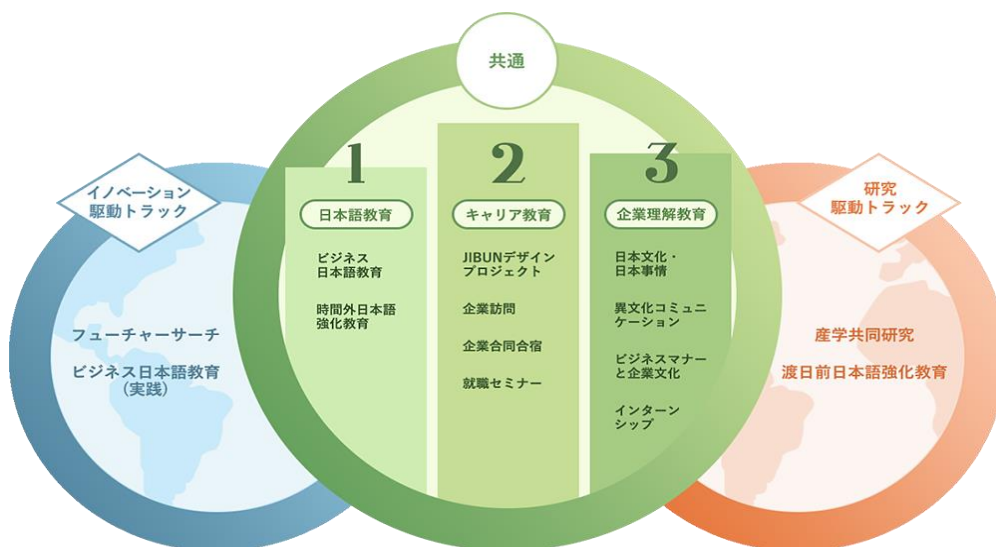


図1 プログラムの特徴である2つのトラックと3本の柱を示した図

2 令和2年度を取組状況

本章では、令和2年度に行った活動について具体的に述べる。まず、プログラムのスタートアップにあたり行った、コンソーシアムの締結、シンポジウムの開催、広報媒体の作成について述べる。その後、プログラムの柱である「日本語教育」「企業理解教育」「キャリア教育」において行った活動をそれぞれ具体的に報告する。

2.1 プログラムのスタートアップ

2.1.1 スタートアップシンポジウムの開催

令和3年1月20日（水）、本学国際交流センター及び地域未来創造センター（現地域人材養成センター）主催により「山梨留学生就職促進プログラム・スタートアップシンポジウム」が、甲府キャンパス大村記念ホールとオンラインで同時に開催し、本学を含めた県内外の大学・自治体の担当者、県内企業の採用担当者など約130人が参加した。

シンポジウムでは、島田眞路山梨大学学長による開会挨拶の後、長崎幸太郎山梨県知事（代理：雨宮学国際戦略監）、樋口雄一甲府市長、石坂正人一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会長の3名から参画団体代表としてご挨拶をいただいた。

その後、茅暁陽国際交流センター長が事業概要を説明した後、小笠原千寿文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐が「外国人留学生の就職促進について」と題し基調講演を、招待講演では、中国出身で本学へ留学生として来日した経歴を持つ巖浩 EPS ホールディングス株式会社代表取締役会長兼 CEO が「留学生（よそ者）をイノベーションに活かすために」という題でお話をいただいた。講演後は、日本での就職や起業について参加者から活発な質疑が寄せられ、巖 CEO より熱誠を込めたアドバイスをいただくなど、有意義なシンポジウムとなった。



図2 会場とオンラインのハイブリッド開催となったスタートアップシンポジウム

2.1.2 協定書の締結とコンソーシアムとの連携

留学生人材による地域産業の問題解決を図るという命題のもと、本学国際交流センター・地域人材養成センターを事務局とする、山梨県・甲府市・県内企業と産官学三位一体のコンソーシアムを構成する旨の協定を交わし、先に挙げたスタートアップシンポジウムにおいて協定書の締結を行った。

さらに、本コンソーシアムでは山梨県知事政策局国際戦略グループ、甲府市雇用創生課、一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会、一般社団法人山梨県情報通信業協会、一般社団法人機械電子工業会、山梨県中小企業団体中央会のサポートを受け、キャリア教育の組織化による国内・県内就職率のさらなる向上が期待される体制を構築した。

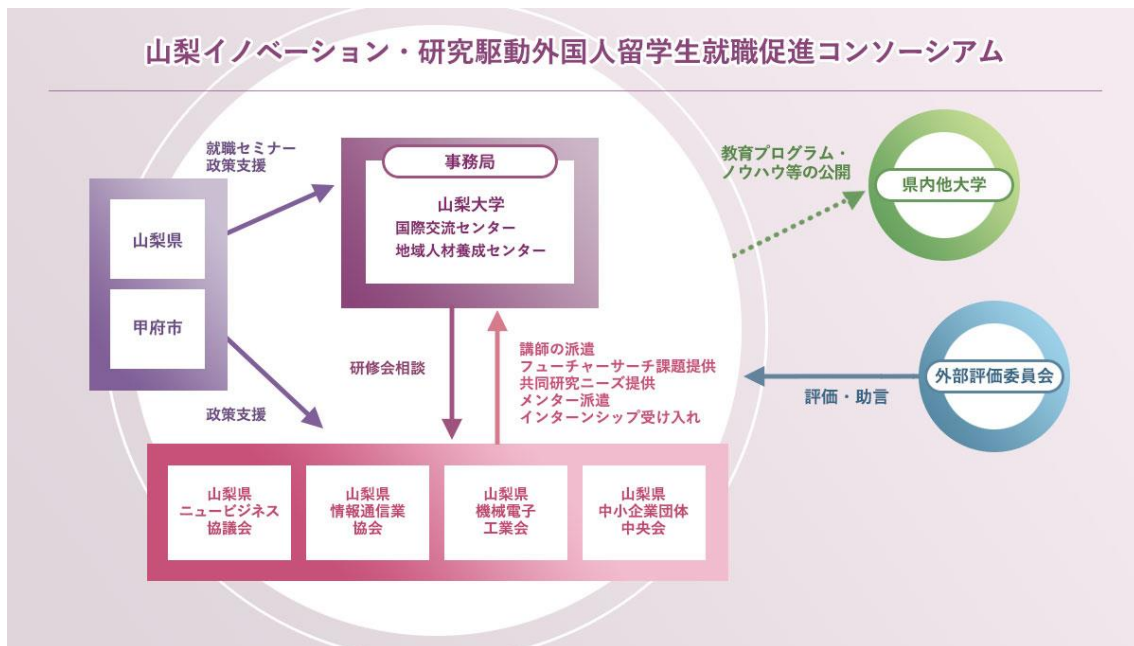


図3 本プログラムにおけるコンソーシアムの全容とそれぞれの役割

2.1.3 ホームページ及びパンフレットの作成

本プログラムの実施に当たりコンソーシアム、及び地域の理解を得ることが不可欠であり、そのためには活動の内容の周知を図るための広報媒体が必要となった。そこで、今年度はプログラムの概要を周知することを目的とするパンフレットと、活動の概要を周知すると同時に、その活動内容を随時報告することを目的としたホームページの作成を行った。これにより、採用する企業側も本プログラムに参加する留学生がどのような教育を受けた上で採用活動に参加しているかを知ることができ、企業が留学生を採用する際の心理的なハードルを下げることが期待される。さらに、活動実績を重ね、ホームページの内容を充実させていくことで、他大学への波及効果も期待したい。

2.2 プログラムの3本の柱に基づく主要な活動の報告

2.2.1 「日本語教育」の活動報告

初級日本語コースの開講

昨年度の段階では研究駆動トラックにおいては、日本語の学習経験がまったくない学生を対象としていたため、ビジネス日本語を学習するための土台として初級日本語を学習する機会を提供する必要があった。そこで、それぞれの学生の環境にあわせ“intensive normal”、“intensive rapid”、“intensive online”の三種類のコースを用意した。これらのコースに参加した学生は合計21名で、最後まで受講を続けた学生は19名であった。

“intensive normal”は国内に滞在している学生を対象に12月から3月までの4ヶ月を使用して、初級前半を修了し日本語能力検定N5レベルの日本語力を取得することを目標としたコースで週2日、90分×6コマの授業を開講した。

“intensive rapid”についても、国内に滞在している学生を対象としたもので、12月から3月までの4ヶ月を使用して、初級を修了し日本語能力検定N4レベルの日本語力を取得することを目標としたコースで週2日、90分×6コマの授業を開講した。開講時間の総量は“intensive normal”と変わらないが、進度を1.5倍としているため“rapid”コースとなっている。

“intensive online”については本学入学前はまだ来日していない学生を対象としたもので、1月から3月までの3ヶ月を使用して、初級を修了し日本語能力検定N4レベルの日本語力を取得することを目標としたコースで週6日、90分×12コマの授業を開講した。

すべてのコースは、日本語能力検定に合格するための基本的な文法項目の理解と、ビジネス場面において求められるコミュニケーション能力の向上を目標として開講されたものであり、それらの目標を達成するための工夫として「日本語 SA の導入」と「日本語能力検定模試の実施」の2点を実施した。以下、それらの工夫について概要を述べる。



図4 研究駆動トラックにおける日本語教育の概要。令和2年度はこの内、N4 到達を目標とする online 夜間日本語集中 (intensive online) を含む intensive コースを開講した。

初級日本語授業における日本語 SA (Student Assistant) の導入

本学では、ビジネス日本語を学習するに当たり、言語理解、文化理解の側面から早期の段階で母語話者とのコミュニケーションになれることが重要であると考え、2月より研究駆動トラックの学生を対象としたすべての授業において毎回30分学生が母語話者と会話練習をする機会を設けた。

SA との会話の活動は学生にも非常に評判がよく、とくに来日前の学生にとっては生きた日本語を使用する唯一の機会となり、習得という側面のみならず、学習者のモチベーションの向上にも大きく寄与したと考える。

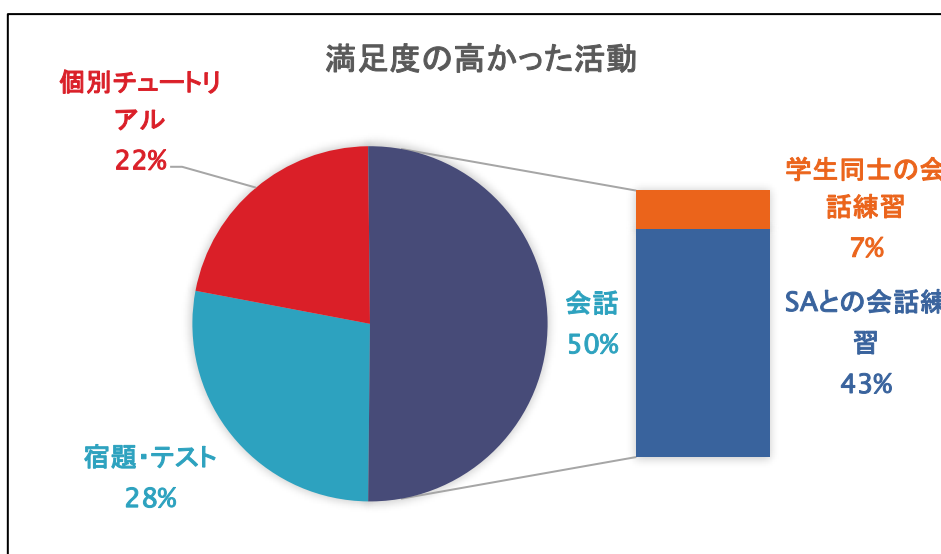


図5 コース終了後アンケートより抜粋

評価のための日本語能力検定模擬試験

コース終了時に、学習者の到達度を確認するために日本語能力検定模擬試験を実施した。“intensive normal”の学生はN5レベルを、“intensive rapid”、“intensive online”の学生はN4レベルの試験を受験した。結果としてN5レベルを受講した6名は全員合格点まで到達することができていた。N4レベルについては、テストを受験した13名のうち9名が合格点に到達することが出来た。また到達することの出来なかった4名についてもN5レベルの模試を追試として受験し、全員が合格点まで到達していることを確認した。

従来の授業を活用した日本語教育

学部生に対しては、これまで本学の国際交流センターで開講してきた学部の語学教育科目4レベル7科目の中からそれぞれの日本語力に応じた授業の受講を通して、日本語力の向上を図った。

2.2.2 「企業理解教育」の活動報告

ビジネスマナー講座

学部生を対象に「ビジネス日本語マナー講座」を開き、本プログラムのコンソーシアム団体の一つである山梨ニュービジネス協議会より、マナー講座講師を派遣していただいた。16名の留学生が参加し、前半は、ビジネスマナーの心得やコミュニケーションの大切さを、後半は挨拶、名刺交換や電話対応の仕方などを実践的に楽しく丁寧に教えていただいた。



図6 ビジネスマナー講座の様子

就職ガイダンス&ワークショップ

令和2年度山梨県「外国人留学生県内就職促進事業」の一環として開催された「外国人留学生インターンシップ&就職ガイダンス」は、本学の留学生を対象としたガイダンスで、11名が参加した。ここでは一般社団法人留学生支援ネットワーク事務局長の久保田学氏を講師とし、日本の就職活動の特徴と就職活動における自己理解の重要性について説明していただいた。また、日を改めて、同氏を講師とした、仕事理解のための業界・企業研究のガイダンスを開催した。

その後、上記のガイダンスで学んだことの実践練習の場として、学部3年生、修士1年生の就活生9名を対象に、大学生活における経験の振り返りと自己の特性や強みについて考え、それをまとめるワークショップを1回、自分の興味ある業界や企業について調べ、志望動機としてまとめて発表するワークショップを2回開催した。これらのワークショップでは、キャリアコンサルタントの資格を有する本学の日本語教員が、ファシリテーター・アドバイザーとなり、留学生一人一人が各々の自己理解や仕事理解を深め、実際のエントリーシート作成につなげた。

表 1 企業理解教育の具体的内容とスケジュール

	実施日	項目	主な内容
1	12月9日	オリエンテーション	コーススケジュール, 就職活動の概要など
2	12月16日	就職ガイダンス(1)	就職活動理解, 自己分析
3	12月23日	E.Sワークショップ(1)	自己PRなど
4	1月13日	SPI対策講座(1)	SPIの構成, 特徴
5	1月14日	SPI対策講座(2)	SPI対策
6	1月15日	SPI対策講座(3)	SPI対策
7	2月3日	就職ガイダンス(2)	志望動機の手書き方, 業界研究, 企業研究
8	2月17日	E.Sワークショップ(2)	企業のHPの見方, 志望動機など
9	2月24日	E.Sワークショップ(3)	志望動機など
10	3月3日	卒業生による体験談	仕事の様子, 就職活動の様子, 後輩留学生へのアドバイス, 質疑応答
11	3月10日	面接対策講座(1)	採用面接の概要
12	3月17日	面接対策講座(2)	実践練習
13	3月18日	面接対策講座(3)	実践練習

就職実践対策—SPI—

SPI対策講座では、一般社団法人 日本国際化推進協会、及び明光ネットワークジャパンに講師を委託し、3日間に亘って、SPIの概要説明と、問題の解答・解説が行われた。受講生たちは、『留学生のための就職筆記試験の教科書』（日本能率協会マネジメントセンター）を用いてSPIの模擬試験を受け、受講生の正答率の低かった分野を中心に、丁寧な解説と解き方のポイント説明がされた。留学生個々からの質問も多く、就職活動における筆記試験対策の重要性を実感できる講座となった。

就職実践対策—面接—

面接対策講座では、一般社団法人 日本国際化推進協会に講師を委託し、3日間にわたり、採用面接を受ける際の注意事項や面接でよく聞かれる質問などについての説明や実践練習が行われた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、採用試験がオンライン受験に切り替わる企業も増えてきたことから、本講座も、当初の対面形式からオンライン形式に変更し、オンライン面接を受ける際のカメラの設定や視線や発声の仕方などの留意点を踏まえた練習を行った。実践練習では、数人のグループに分かれ、各グループには講座講師や大学教員、日本語SAが入って面接官役となり、参加者同士でもフィードバックをし合うなど、参加者一人一人が能動的に参加する活発な練習活動となった。

卒業留学生による就職体験談会

現在日本企業で働く本学卒業留学生を講師として招いた就職体験談会を開催し、20名の在学生在が参加した。就職に向けた活動や就職後の働く様子、外国人材として感じる日本企業文化と後輩留学生へのアドバイスなど、実際に就職活動を経験し、日本企業で活躍している先輩ならではの、具体的な話を聞くことができた。

2.2.3 「キャリア教育」の活動報告

表 2 キャリア教育の具体的内容とスケジュール

	実施日	項目	主な内容
1	1月21日(木)	企業文化セミナー	株式会社印傳屋上原勇七 日本の企業文化, 県内企業の特徴, 企業で留学生に期待されること, ビジネスマナー
2	3月4日(木)	企業見学会(1)	株式会社早野組 株式会社桔梗屋
3	3月9日(火)	企業見学会(2)	株式会社はくばく 藤精工株式会社

企業文化セミナー

株式会社印傳屋上原勇七の専務取締役 上原伊三男氏に講師を務めていただき、創業 440 年の歴史の中で育まれた、日本の伝統的な企業風土や文化について、留学生にわかりやすく教えていただいた。セミナーの中では、印傳の伝統技術とデザインの革新の紹介を交えながら、日本の伝統的な企業文化の特徴や、留学生の母国企業との慣習の違い、日本企業が留学生に期待することなどについて、留学生からの質問を交えながら、大変興味深いお話をいただいた。

留学生にとって、日本の伝統ある企業から直接お話を伺える貴重な体験となり、日本での就職意識を高められるよい機会となった。



図 7 企業文化セミナーの様子

企業見学会

この企業見学会の主な目的は、留学生に、働くイメージとともに県内の優良企業や産業について理解する場を提供し、大学・大学院を卒業・修了後の自分のキャリアビジョンを描く上での参考にってもらうことである。

株式会社早野組では、総務部の担当者より、会社の事業概要や総合建設業に関するご説明をいただいたほか、設計部と土木部の担当者より、それぞれ実際に手掛けられた ICT の活用事例等の数々をご紹介いただいた。その高い専門技術と抱負な施工経験の蓄積が、地元で長年信頼を得ていることも知ることができた。

株式会社桔梗屋では、会社の歴史や菓子の製造と販売のほかにも、レストランやテーマパーク、プライダル関連なども展開していること、そして、信玄餅の異業種とのコラボレーションと事業を展開されているというお話を伺った。大人気商品の信玄餅の製造工程の一部も見学させていただいた。



図8 株式会社早野組/株式会社桔梗屋見学の様子

株式会社はくばくでは、大麦を主軸とした穀物の感動的な価値の創造を通して、人々の健康と豊かな食生活に寄与するという会社の基本理念が、精麦技術や美味しい雑穀ブレンドのための配合の追求、穀物茶や和麺などの様々な開発商品の中に一貫して貫かれているということに学生たちも感銘を受けた様子であった。新型コロナウイルス感染予防のため、工場の様子は見学ではなく動画による説明であった。

藤精機株式会社では、精密板金加工やプレス加工などの様々な工程を、工場見学という形で実際に一つ一つ見せていただいた。設計から施工まで会社で一貫体制であることや、一般的なものだけでなく特殊な板金の注文にも素早く対応できることも、会社の強みであるということだった。また、近年、女性社員も増え、外国人材も積極的に受け入れるなど職場環境の多様化が進んでいることも知った。



図9 株式会社はくばく/藤精機株式会社見学の様子

3. その他の活動

(1) 学長からのメッセージとプレゼントの配付

2020年12月16日（水）、例年この時期に「学長主催山梨大学外国人留学生懇談会」を行っていましたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、懇談会に代えて本イベントを開催し、留学生及び外国人研究者を励ますこととしました。

島田学長からのメッセージと合わせて、年末年始の休暇期間中も感染症対策を心がけていただきたく、携帯用ハンドジェルや、和柄のハンカチ、さくらの石鹸をプレゼントしました。



(2) 留学生後援会による生活支援給付金の支給

山梨大学外国人留学生後援会は、本学の外国人留学生に対し経済的支援を行うとともに、留学生と地域社会・本学教職員との交流を行い、あわせて本学の派遣留学生の不測の事態にも対処すること等により、本学の留学生交流の一層の促進を図ることを目的として設立された組織です。

今般の新型コロナウイルス感染症拡大により、様々な活動が制限され、特にアルバイト収入などの減少が生じた外国人留学生24名に対して、家賃の支払い、食費及び生活必需品などに充てられるよう、6月上旬及び中旬に現金5万円の緊急支援給付を実施しました。

(3) 新規入国者の自主隔離費用の補助

新型コロナウイルス感染症水際対策のため渡日空港近郊宿泊施設での隔離期間を義務付けられた外国人留学生に対して宿泊費補助を行いました。このうち「ふるさと納税寄付金」によるものについては1人6万円を補助し、予期せぬ出費を必要とした学生にとって、甲府市への信頼及び親近感が生まれ、コロナ禍の後の積極的な交流についての確かな足掛かりを作ることができました。

IV. 国際化教育

国際的な環境で勉強できるキャンパスの整備に向け、国際交流センターでは「G-フィロス（グローバル共創学習室）」を中心に、日本人学生と外国人留学生が共に学び、異文化理解・交流を行う機会を数多く設けています。

G-フィロス

グローバル共創学習室『G-フィロス』とは、国際的なコミュニケーションを育成する場として、異文化理解や語学学習を通じ、学生間で互いに学び合う学習環境のことで、日常的には、英語に限らず語学の勉強を学生同士でお互いにサポートするようなサービスを提供し、それ以外にも異文化交流イベントを開催するなどして、学生の学び合う環境を整えています。

1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート — SA(Student Assistants)による語学サポート・異文化理解と アドバイザーによる英語学習・留学サポート —

江崎 哲也

1. はじめに

本学では「山梨大学グローバル化に関する基本方針」に基づき、従前の留学生センターの役割を 2014 年度より拡大し、さまざまな国際交流支援活動を通じて本学のグローバル化を総合的に活性化することをミッションとする国際交流センターを設置した。グローバル人材育成に向けての取り組みの一つとして、国際交流センターでは、G-フィロス（グローバル共創学習室）の管理・運営⁴と、英語学習・留学アドバイザー⁵による学生の英語学習と海外留学のサポートを行っている。ここでは、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大してさまざまな制約がある中、全ての取り組みをオンラインに切り替えて行った 2020 年度の G-フィロス（グローバル共創学習室）の取り組みと英語学習・留学サポートについて報告する。

2. G-フィロス（グローバル共創学習室）関連の活動

本学工学部では、共創学習支援室「フィロス⁶」が学科の壁を越えた学習交流を促進する特色のある取り組みを行っている。しかし、2014 年度前期まで本学には外国語や自国の文化をお互いに教えあったり共有したりする場（旧留学生センターアネックス、国際交流スペース等）はあっても、なかなか活用されなかった。そこで、国際交流スペース（本学甲府キャンパス B-1 号館 221、Y 号館 2 階）において、国際交流に高い意欲をもち、責任感のある留学生と日本語を母語とする学生を SA(Student Assistant 以下 SA)として配置し、さらに、英字新聞、TOEIC・TOEFL 関連書籍、日本語学習教材、日英語の DVD を配架して日本人学生及び留学生の語学学習の支援を行うとともに、気軽に異文化交流ができる国際的な共創学習支援環境を提供することとした。表 1 に G-フィロスの取り組み一覧を示すが、前述のように 2020 年度は種々の制約があったため、規模を縮小し、全てオンラインで提供した（表 1 右端参照）。

表 1 G-フィロス主な取り組み一覧

	取り組み名	1 回あたり 開催時間	頻度/週	1 回あたりの配置人数	2020 年度実施状況
①	イングリッシュ・カフェ (2~3 会場で実施。)	40 分	8~10	アドバイザー1+SA2/	オンラインで、且つ1セッション 5名までという人数制限をして

⁴ 平成 26 年度戦略・公募プロジェクトー教育関連プロジェクトー「グローバル人材育成プログラムの実施に向けた国際交流環境整備」（プロジェクト代表者：茅 暁陽）の支援を受けている。本プロジェクトでは、ほかに協定校への海外インターンシップ付き短期留学プログラムの企画と試験的実施、協定校からの学生交流団の受入れを行った。

⁵ 平成 26 年度・27 年度国立大学法人運営費交付金特別経費「『学長のリーダーシップの発揮』を更に高めるための特別措置枠」による。

⁶ <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/kyousou/index.html>

					実施
				本学英語教員 1(週 3 回)	後期のみ実施
②	イングリッシュ・サポート	60～90 分	10～12	アドバイザー1+SA2	オンラインで、且つ1セッション30分とし、各セッション5名までという人数制限をして実施
③	英語学習・留学個別相談	30 分	時期による	アドバイザー1～2	オンラインで実施
④	TOEIC 対策等講座	70 分	2～5	アドバイザー1	オンラインで実施
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	60～70 分	4	アドバイザー1	オンラインで実施
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション(教職員向け英語講座を含む)	40～60 分	2 または 1	アドバイザー1(+SA2)	実施せず
⑦	医学部 C における英語学習サポート	240 分	1	アドバイザー1	実施せず(イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポートがすべてオンラインに切り替わったため。)
⑧	諸外国語カフェ	60～90 分	3～5	SA1	実施せず
⑨	日本語学習サポート	60 分	25	SA1	2～3 月に昼休みのみ実施

3. 英語サポート SA・英語学習・留学アドバイザーの活動

英語学習・留学アドバイザーは、前掲の表 1 の①～⑦に関わっているが、ここでは利用者が多い①～④について説明する。利用者数については表 2 を参照のこと。

3.1 イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート

上記①と②では、英語が話せる SA と英語学習アドバイザー、または本学英語教員が、楽しく話すことを目的としたイングリッシュ・カフェを毎日昼休みに開催した。また、夕方には、さまざまな英語のサポートを行った。2020 年度のイングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート利用者数は、延べ 1,510 人であったが、これは 1 セッション 5 名までという人数制限をして実施したこと、英語教員によるイングリッシュ・カフェを前期は実施できなかったことによるものと考えられる。

3.2 英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスン

上記③の英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスンは、学生が自律的に英語学習ができるようになることを目的に、本学が 2019 年度から雇用した英語学習・留学アドバイザーが常時 2 名態勢で行った。1 回 30 分の枠で、英語学習や留学に関する目標設定や学習計画、動機付け、学習の継続のために必要なことなどについて個別に(1対1で)アドバイスしたり、英語のレッスンをしたりしている。その相談/レッスン内容は、TOEIC®テストや TOEFL®テスト、IELTS などの各種試験対策から、スピーキングやライティングといった特定の英語スキルの向上について、留学に向けてなど多岐に渡っている。2020 年度の相談件数は、延べ 1,232 件であった。件数は 2019 年度比で 10.8%増、稼働率(予約枠数に対して何枠相談/レッスンが行われたか)は 2018 年度が約 57.6%だったのに対して、2019 年度は 73.1%、2020 年度には 94.7%となっており、非常に効率的に英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスンが行われるようになったことがわかる。これは、英語学習アドバイザーが学生に対して継続して英語を学習することの重要性を説き続けた結果でもあるが、2019 年度 2 月までは、予約も相談/レッスンも全て対面で行っていたものを、予約はインターネット上でできるようにし、相談/レッスンは全てオンライン(Zoom を使用)に切り替えたことによるところも大きいと思われる。

3.3 TOEIC®等対策講座

上記④のTOEIC®対策講座は、前期/後期に1回70分で計8回行っており、2020年度は前期に2講座、後期にも2講座開講した。本講座受講によって単位を得られることはないが、講座はTOEIC® L&Rを初めて受験する学生向けのものから具体的なスコアを目標にしたものまで取り揃えており、できるだけ多くの学生が講座を受講できるようにした。2020年度の対策講座受講者は、延べ464人であった。それ以外にもセミナーを設け（表3参照）、学生が興味を持ち、継続的に英語の学習ができる環境を整えた。

表2 G-フィロス各種サービスの利用者数推移

	取り組み名	延べ利用者				
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
①	イングリッシュ・カフェ (2会場で実施。)	2,317	2,490	2,884	3,906	1,510
②	イングリッシュ・サポート					
③	英語学習・留学個別相談	1,625	1,104	1,382	1,111	1,232
④	TOEIC 対策等講座	621	881	664	444	464
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	635	432	486	647	394
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション	239	80	27	10	N/A
⑦	医学部Cにおける英語学習サポート	156	223	196	111	N/A
⑧	諸外国語カフェ	242	215	167	179	N/A
⑨	日本語学習サポート	593	640	522	639	84
⑩	英語自律学習ポイントカード	481	591	604	703	373

4. G-フィロス関連イベント

G-フィロスでは硬軟織り交ぜて各種のイベントを行っている。表3に2020年度に行ったイベントとその参加人数を示す。イベントの主なテーマはTOEIC®、異文化交流、留学の3つである。いずれのイベントも大変好評であり、イベントをきっかけにG-フィロスを利用し始める学生もかなり存在している。2020年度は新たな取り組みとして、本学に入学予定の高校生を対象にしたTOEICセミナーを行い、入学前から英語学習に取り組むことの重要性を伝えた。参加した高校生にとっては、本学の英語学習サポートの手厚さを知ってもらった好機となったようである。

表3 2020年度G-フィロス関連イベント

日付	時間	場所	イベント名	参加人数
5月13日	17:00-18:30	オンライン	スタートダッシュTOEICセミナー	66
6月26日	17:00-18:30	オンライン	African Culture Day	35
10月21日	17:00-18:00	オンライン	英語スピーキングセミナー	14
10月28日	17:00-18:00	オンライン	英語ライティングセミナー	13
12月16日	17:00-18:30	オンライン	Holiday Party	47
2月2日	14:30-17:00	オンライン	高校生TOEICセミナー	16
2月3日	14:30-17:00	オンライン	高校生TOEICセミナー	17
2月17日	15:00-16:00	オンライン	Mug Cake Party!	8
2月18日	15:00-16:00	オンライン	英国紅茶体験記	18

5. 「英語自律学習ポイントカード」の配布と TOEIC/TOEFL 無料受験資格付与

英語を自律的に学習できるようにするため、積極的に上記英語関連サポートや講座に参加した学生に特典として TOEIC® IP L&R/S&W、または TOEFL ITP®の受験料のうち 3,000 円をキャッシュ・バックするという取り組みを行っている。それを管理するために「英語自律学習ポイントカード」を作成し、希望者に配布した。

表 2 の最下段に示すように、2019 年度まで「英語自律学習ポイントカード」発行枚数は徐々に増え続け、2019 年度には 703 枚に達した。しかしながら、2020 年度は種々の取り組みの規模をかなり縮小せざるを得ない状況であったため、発行枚数は 373 枚に止まった。

6. まとめ

グローバル人材の育成に向けて、国際交流センターでは、外国語力、海外体験、異文化と関わる主体性と積極性、自律的語学学習について 2014 年度より継続的に取り組んできた。この中で本学が 2019 年度から雇用した語学習・留学アドバイザーの活動は、特に本学学生の英語学習の支えとなり、それが TOEIC 等のスコアの伸びや、海外留学者数の増加に大きく貢献してきた。第 3 期中期目標・中期計画には、G-フィロス（グローバル共創学習室）でのサポート内容をさらに充実させ、2021 年度までに G-フィロス利用者数を平成 27(2015)年度に対し 10% 増加させることが含まれている。G-フィロス利用者数（イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート）は、2015 年度に比して 2017 年度に 40%以上増加しているため、すでに目標を達成しているが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響が拡大したため、種々の取り組みを大幅に縮小せざるを得なかった。2021 年度は、第 3 期中期目標・中期計画の数値目標を達成するために、留学生 SA、日本語 SA、英語学習・留学アドバイザー、英語教員と共に G-フィロスの活性化を図る必要がある。

2. イベント・活動報告

2020 年度に G フィロスにて実施した、イベントや活動の詳細を以下に報告します。

1. 交流イベント

主に文化紹介シリーズのイベントや、毎年恒例の行事になりつつある夏祭りやホリデーパーティーなど、誰もが気軽に参加し異文化交流できるイベントは 1 年を通して開催しています。

(1) English Café と English Support がスタート：

前期：2020 年 5 月 7 日（木）～2020 年 8 月 7 日（金）、後期：2020 年 10 月 9 日（金）～2021 年 1 月 22 日（金）

English Café と English Support がスタートしました。例年は 4 月から昼休み中に実施する English Café が始まり大勢の新入生で賑わっていましたが、今年は 5 月から全てをオンライン（Zoom ミーティング）で実施できるように体制を変更し開始時期を遅らせました。

オンラインセッションとして形を変えたことで、留学生の英語 SA（スチューデントアシスタント）が初めは戸惑いを見せていましたが、常連の学生達が変わらず参加し続けてくれたこともあって、徐々に感覚を掴んでいる様子でした。オンラインへの切替え後も学生に参加しやすい雰囲気伝えるために、積極的に SNS に紹介動画や、日常で使える英語フレーズなどを掲載して情報発信も行いました。



ENGLISH Café & Support

オンライン(Zoomミーティング)で実施します。
※参加前にこちらのページより、ご使用環境に合わせたアプリをダウンロードしてください。
<https://zoom.us/join?secret=123456789>

2020年度前期：5月7日(木) - 8月7日(金)
 月～金(祝日除く)
参加方法&スケジュールの詳細はCNSをご確認ください。

★English Café (英会話)
 ▶12:20-13:00

★English Support (英会話 and more!)
 ▶16:35-17:15 ▶17:20-18:00 ▶18:10-18:50

#remoteteaching

【お問い合わせ】
 英語学部アドバイザー室(B1-223) adviser-eng@yamanashi.ac.jp
 開室時間：10:30-13:20/14:20-19:15 (土日祝日を除く)
 主催：山梨大学国際交流センター

(2) African Culture Day を開催：2020年6月26日(金)

本学の留学生が自国の文化について紹介する、オンラインイベント『African Culture Day』が開催され、学生と教職員、学外の一般の方、さらに国外からの方が約20名参加しました。

このイベントは、学生ら参加者が本学留学生との親睦を深め、異文化への理解を深めることを目的に行われました。今回は、マダガスカルとブルキナファソの留学生がメイン進行役を務め、参加者に出身国の紹介や、国にまつわるクイズ出題をした後、どなたでも簡単に踊れるようにアレンジされたアフリカンエクササイズを楽しみました。

外出自粛・ステイホームが続く中、元気な留学生2名が明るい空気を運び、エクササイズの際は、楽しそうに体を動かす小さなお子さんの姿も画面越しに見られ、オンラインイベントでありながら、みなさんに積極的に参加していただき、終始笑顔の絶えない素敵なイベントとなりました。



音楽に合わせてアフリカンエクササイズをする様子



明るいアフリカの留学生達が進行役



会場での集合写真

(3) Holiday Party を開催：2020年12月16日(水)

毎年恒例のホリデーパーティーを今年はオンラインで開催し、留学生や日本人学生、教職員ら約70名が参加しました。

本イベントでは、本学の留学生、および山梨県国際交流員が各国の年末年始の過ごし方を紹介しました。参加者は、アメリカ、フランス、マレーシア、モンゴルの食文化や伝統、モダンカルチャーを学び、クイズに答えたり、質問をしたりと、オンラインでありながら活発なやり取りが行われました。

その後、グループに分かれ出演者とゲームや会話を楽しむ時間を持ちました。

参加者からは、「年末のひと時を楽しく有意義に過ごすことができた」、「海外の文化により関心を持てるようになった」などの声が寄せられました。



主催者側の集合写真



盛り上げてくれた司会担当の留学生たち



2. Student Assistants (SA) の活動

Student Assistants (SA) は、日本人学生及び留学生を短期雇用する形で運営しており、日本語・英語その他言語のサポートを行っているほか、前項で紹介した異文化交流イベントの際などに中心的役割を担っています。

以下に、日本語サポート SA と留学生 SA の 2 つの SA の活動について報告します。

(1) 日本語サポート SA

新型コロナウイルス感染症の影響が拡大している時期でもありましたので、留学生/日本語非母語話者学生に対する日本語サポートは行っておりませんでした。しかし、留学生から「春休み中に日本語話者と日本語で話したい」という強い要望があったため、日本語サポート SA による「オンラインにほんごカフェ」を、2月8日から3月26日の昼休みにのみ行いました。参加した学生は研究等の合間に日本語会話を楽しんだようです。

(2) 留学生 SA

留学生 SA は、イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポートを担当しています。イングリッシュ・カフェは昼休みの時間帯に開催しており、日本人・留学生問わず、英語学習を目的とした多くの学生が、昼休みを利用して気軽に留学生との会話・交流を楽しめる形態となっておりオンラインで行いました。イングリッシュ・サポートは、主にV限目・VI限目の時間帯に行っており、令和2年度は会話セッション数を3枠設けて、オンラインでの交流の場を提供しました。

3. 英語学習・留学アドバイザーによるサポート

英語学習・留学アドバイザーは、常時2名体制をとって学生の英語学習と海外留学のサポートを行っています。英語学習・留学に関して個別相談を受けるほか、先に紹介した留学生 SA のイングリッシュ・カフェやイングリッシュ・サポートを SA と共に運営しています。プロのアドバイザーの指導や相談を、本学学生であれば無料で受けることができるとあって好評で、導入した平成26年度以降、利用者は年々増加傾向にあり、安定的な運用を行っています。令和2年度は、プライベート英語レッスンもオンラインで実施したため、医学部キャンパスの学生も積極的に利用するようになりました。

その他に、令和2年度においてアドバイザーが主催するさまざまな英語学習イベントやセミナーについて以下に報告していきます。

(1) 「スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナー」を開催：2020年5月13日(水)

スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナーが開催され、60名を超える学生が参加しました。

TOEIC がこれから留学や就職活動などでいかに有効に活用できるのかについての具体的な事例紹介や、TOEIC サンプル問題を使用して各パートにおける平均解答時間配分や問題の解き方のコツ、学習方法を説明しました。

今まで知らなかった TOEIC テストに向けての見通しを持つことができた、セミナーになりました。

参加した学生からは、「TOEIC®についてよく理解することができた」「試験に向けて何から手をつけたらいいか見通しが立った」「英語学習についての関心が高まった」といった声が聞かれ、それぞれにとって有意義なセミナーとなったようでした。



(2) 「コンピュータ理工学科 TOEIC 対策講座」を開催：2020年7月20日(月)、27日(月)

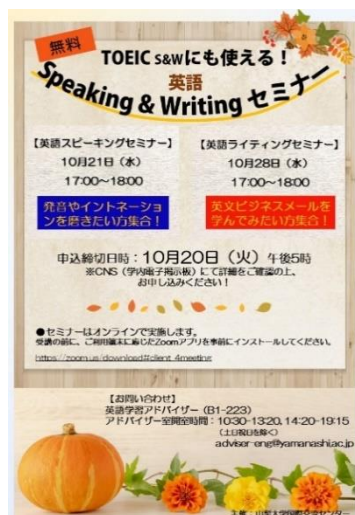
昨年度より、コンピュータ理工学科の1年生向けに TOEIC 講座を開催しており、今回はオンラインにて各回 50 名を超える学生が参加しました。本講座は2日間に渡りリスニングとリーディングで区切って実施しており、それぞれの担当英語学習アドバイザーは学生の表情や様子を確認でき、大きな教室で実施する以上に、学生の反応が掴めました。

(3) 「英語スピーキング&ライティングセミナー」を開催：2020年10月21日(水)、28日(水)

「TOEIC® Speaking & Writing 試験にも使える!」と題した英語のスピーキングとライティングの対策セミナーが、2週にわたりオンライン (Zoom) にて開催されました。

1週目のスピーキングセミナーを受講した14名は、正しい英語の発音やイントネーションの方法を学び、2週目のライティングセミナーを受講した13名は、英文ビジネスメールの作成方法等を学びました。

受講者からは、「スピーキングが苦手だったけれど、発音のコツを教えてもらったので今後の練習に役立てたい」「セミナーの内容がアウトプットにウェイトを置いていたので、実践的だと思いました」といった声が聞かれました。



(4) 高校生向け山梨大学入学前教育「TOEIC® L&R IP 学習スタートダッシュ」を開催：2021年2月2日、3日
 本学アドミッションセンターと共同で、入学前の高校生向けに TOEIC®L&R テストに関する入門編のオンラインセミナーを2日間に渡り実施し、30名以上の高校生が参加しました。真面目な学生ばかりで、メモを取りながらしっかりと参加してくれた様子がとても印象的でした。

(5) 「English Café with English Study Advisors」を開催：2021年2月17日(水),18日(木)

英語学習オンラインイベント「English Café with English Study Advisors」を、コロナ禍で自宅にて過ごすことの多い春休み期間中に2日に渡り、楽しみながら英語を学ぶことができるように企画しました。オンラインでクッキングやティータイムを体験しながら英語に触れるイベントで、のべ26名の学生さんが参加しました。

(5)-1 Day1 「Mug Cake Party」を開催：2021年2月17日(水)

電子レンジで簡単に作れる、「マグカップケーキ」をそれぞれ画面越しで作りました。英語学習アドバイザーより材料や料理の手順が英語で説明され、参加者は基本の作り方をアレンジしたり、トッピングを加えたりして、一人ひとりオリジナルのマグカップケーキを完成させました。また、食べ物の触感や見た目、味を伝える表現などをクイズ形式で学んだり、出来上がったケーキの説明を英語で行ったりしました。



完成したマグカップケーキと一緒に集合写真

(5)-2 Day2 「英国紅茶体験記」を開催：2021年2月18日(木)

イギリスの紅茶2種を実際に飲みながら、イギリスと紅茶文化についてお話をしました。

紅茶に関する英語表現、アフタヌーンティーのエチケット、一般的に飲まれている紅茶とお土産や贈り物用の紅茶の紹介、イギリス人の紅茶へのこだわりなど、イギリスの紅茶文化の素晴らしさを参加者と共感できて、担当した英語学習アドバイザーにとっても楽しいイベントになったようです。

また、アメリカ英語とイギリス英語の違いにも触れ、cookie/biscuit/sconeの違いなども学習をしました。

本学の語学研修でイギリスに行った参加学生からは「イギリスが懐かしくなりました。」との言葉があり、「新型コロナウイルスが収束したら、イギリスに旅行/留学してみたい」と言ってくれた学生もいました。



参加者それぞれの紅茶と共に

医学部キャンパスでの取り組み

国際交流センターは、山梨大学甲府キャンパスに設置されていますが、10 kmほど離れた医学部キャンパスには分室を設置し、教授1名を配置して、医学部学生の英語学習サポートや留学生支援などを行っています。その取組について、国際交流センター医学部分室・宮本和子教授の年次報告にて報告します。

2020年度 医学部での国際交流活動:英語学習支援・留学生支援・他の国際交流に関する取り組み

国際交流センター医学部分室

宮本和子

1. 英語アドバイザーによる医学部英語サポート・英語講座報告

今年度はCOVID-19流行の影響を受け、医学部キャンパスでの対面の英語サポートと英語講座は実施されず、ZOOMによって実施された全学対象のものを医学部学生も利用する形であった。

ZOOMによる提供は医学部キャンパス学生にとっては課題であった「両キャンパス間の移動の問題」解決につながり、また、自分の空いた時間を自由に選んで利用でき、利用しやすいとの声が多数聞かれた。

看護学科4年生は、「統合実習」として実施するカンボジアへの「手洗いビデオ教材」の英語版開発や、「卒業研究」で使用される英語版質問紙表現へのサポートを受けた。使える具体的な表現を学べたと同時に、やはり、事前予約で学生の予定を調整しやすく、利用しやすいとの意見であった。

2. 医学部留学生支援報告

(1) 医学部留学生日本語補講Eクラス

N2以上の日本語能力がある医学部留学生を対象に実施した。前期、後期共に1名が受講者した。本人希望で「医学に関する日本語の基本を学びたい」とのことであったので、「そのまま使える病院英語表現5000」を使用し、日英対記の日本語部分を読みながら、発音の練習、日本の医療現場での特徴や日本語ならではの表現・言い回し等を説明しながら授業を行った。

(2) 統計講座：講師の都合により、今年度は開催されなかった。

3. 医学部での各種イベントは実施できなかった

例年、国際交流センター教員や学生ボランティアにより、医学部キャンパスで各種イベントを実施していたが、本年度はCOVID-19流行の影響で実施できなかった。

V. 地域貢献

国際交流センターは、キャンパス内だけではなく、地域全体のグローバル化にも貢献したいと考えています。地元教育機関や自治体など、さまざまな団体のイベントや国際交流事業に留学生を派遣することは、地域貢献だけではなく、留学生に異文化交流の機会を与えることにもつながっています。

留学生の地域との交流

留学生にとって地域との交流は、自らの暮らす地域をよく知り親しむことで安心して暮らすことができるだけでなく、卒業後も山梨に留まり定住するという選択肢を広げるきっかけともなります。例年、以下のような留学生と地域の方々との交流や、県や自治体の実施するイベントへの留学生の参加についてご報告していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の行事はありませんでした。

- ・信玄公祭り甲州軍団出陣「三条夫人隊」への参加
- ・地域住民の方々と本学留学生との交流を目的とした「こども と おとな と りゅうがくせい の まつり (こおりゅうまつり 2019) 」
- ・留学生と地域の交流活動を通じて互いの信頼関係を築くとともに、食を通して異文化への理解を深めることを目的に毎年開催されている「餅つき大会」

小・中・高等学校への留学生派遣

山梨県内の小・中・高等学校より留学生の派遣依頼があった際、参加を希望する留学生を募集し派遣しています。派遣の要望は主に、国際交流・異文化交流のための授業や行事であることが多く、地域の教育機関の国際交流活動に貢献すると同時に、留学生の異文化体験や日本の教育機関見学の機会にもなっています。今年度の活動は新型コロナウイルス感染症の影響により、ありませんでした。

VI. 国際交流関連データ

留学生在籍状況をはじめ、国際交流に関連する各種データをまとめて報告いたします。

国際交流センターと国際部の行事(2020年度)

時期	行事
4月	15日 交換留学生(受入れ)向けガイダンス
5月	7日-8月7日 前期グローバル共創学習室G-フィロス イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)& サポート(16:30-19:00)開始(オンライン)
	13日 スタートダッシュTOEICセミナー(オンライン)
	16日 学内TOEIC L&R I P 実施
6月	3日 山梨大学留学生後援会 コロナ特別支援金 支給 1回目
	5日 留学生交流パートナー制度説明会&交流会(オンライン)
	16日 山梨大学留学生後援会 コロナ特別支援金 支給 2回目
	26日 African Culture Day イベント(オンライン)
7月	3日 令和2年度第1回 山梨大学海外研修帰国報告会
	4日 学内TOEIC L&R I P 実施
	10日 留学生のための就職ガイダンス(オンライン)
	31日 留学生交流パートナー交流会(オンライン)
10月	8日 新入留学生入国手続き説明会
	9日 後期グローバル共創学習室G-フィロス イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)開始(オンライン)
	21日 英語スピーキングセミナー(オンライン)実施
	29日 チューター説明会
	28日 英語ライティングセミナー(オンライン)実施
	31日 学内TOEIC L&R I P 実施
11月	2日 後期グローバル共創学習室G-フィロス イングリッシュ・サポート(16:30-19:00)開始(オンライン)
	21日-27日 学内TOEIC S&W I P 実施
	30日 山梨大学海外留学オンラインプログラム支援金 支給
12月	1日 山梨大学オンライン進学説明会
	2日 国際交流会館 オリエンテーション
	9日 山梨留学生就職促進プログラム「イノベーション駆動トラック」オリエンテーション
	10日 留学生のための防犯講話
	16日 学長からのメッセージ・プレゼント贈呈(学長主催懇親会に代わる)
	16日 Holiday Party(オンライン)
	16日 就職活動理解・自己分析セミナー(オンライン)
	19日 学内TOEIC L&R I P 実施
	23日 エントリーシートワークショップ(1)
1月	13日 SPI対策講座(概要編)(オンライン)
	14日-15日 SPI対策講座(実践編)(オンライン)
	21日 企業文化セミナー(株式会社印傳屋上原勇七)
	27日 ビジネス日本語・ビジネスマナー講座
	20日 山梨留学生就職促進プログラム・スタートアップシンポジウム

2月	25日	春季オンラインプログラム事前授業
	2日	高校生 TOEIC セミナー実施 (石川アドバイザー)
	3日	高校生 TOEIC セミナー実施 (南部アドバイザー)
	3日	業界研究・企業研究セミナー (オンライン)
	6日	学内 TOEIC L&R I P 実施
	8日 - 26日	春季オンラインプログラム レスター大学
	8日 - 3月17日	春季オンラインプログラム ノーザン・アイオワ大学
	8日 - 3月26日	後期グローバル共創学習室 G-フィロス 日本語カフェ (12:00-13:00) 開始 (オンライン)
	17日	エントリーシートワークショップ(2) (オンライン)
	17日 - 18日	G-フィロス春休みイベント 「Mug Cake Party」 「英国紅茶体験記」 (オンライン)
3月	22日 - 3月18日	春季オンラインプログラム ブリティッシュ・コロンビア大学
	24日	エントリーシートワークショップ(3) (オンライン)
	3日	卒業生による就職体験談会 (オンライン)
	4日	企業見学会 (株式会社早野組、株式会社桔梗屋)
	9日	企業見学会 (株式会社はくばく、藤精機株式会社)
	10日	面接対策講座 (概要編) (オンライン)
	17日 - 18日	面接対策講座 (実践編) (オンライン)

2020 年度留学生在籍状況(国別) 基準日:5月1日

No.	国・地域	大学院生	学部生	研究生	特別聴講 学生等	合計
1	中華人民共和国 People's Republic of China	94	40	14	5	153
2	マレーシア Malaysia	1	17			18
3	ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	14	4			18
4	タイ王国 Kingdom of Thailand	6			1	7
5	バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh	5				5
6	ネパール連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Nepal	5				5
7	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	5				5
8	大韓民国 Republic of Korea	1	2			3
9	フランス共和国 French Republic			1	2	3
10	台湾 Taiwan		2			2
11	モンゴル国 Mongolia		2			2
12	スリランカ民主社会主義共和国 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	2				2
13	英国 United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland				2	2
14	マダガスカル共和国 Republic of Madagascar	1				1
15	ハンガリー Hungary	1				1
16	パナマ共和国 Republic of Panama			1		1
17	パキスタン・イスラム共和国 Islamic Republic of Pakistan	1				1
	計	136	67	16	10	229

受入留学生の推移(過去4年間) 基準日:5月1日

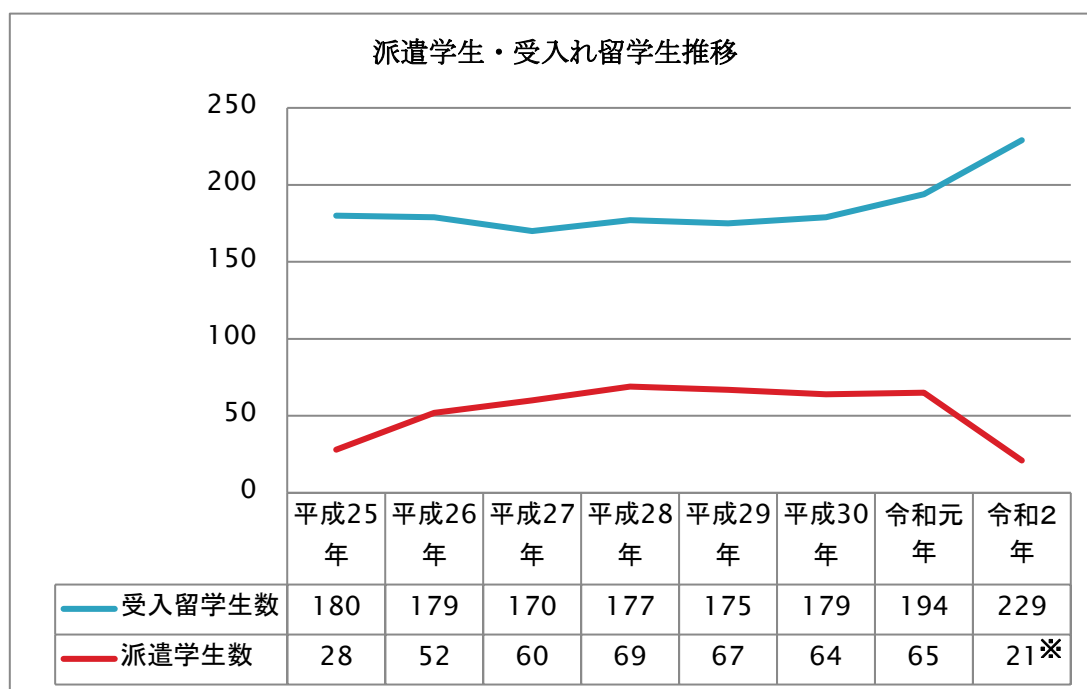
	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
国費留学生	0	16	0	18	0	18	0	17
政府派遣留学生	26	0	22	0	16	0	12	0
私費留学生	54	79	58	81	71	89	76	124
合計		175		179		194		229

派遣留学生の推移(過去4年間)

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
交換留学	4	5	4	0
夏季・春季海外研修	63	59	61	21 (オンライン)
(海外インターンシップ参加者)	(36)	(34)	28	0
合計	67	64	65	21 (オンライン)

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

<図:派遣学生・受け入れ留学生推移>



※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

派遣プログラム

プログラム名	留学先	実地時期	期間	対象学部	備考
英語・文化 オンラインプログラム	カナダ University of British Columbia	2021年2月22日(月) ～3月18日(木)	4週間	全学	Global Citizenship through English (GCE) Online Programにて、近年の国際的課題を、英語スピーキング力を養いながら学びます。
	英国 University of Leicester	2021年2月8日(月) ～2月26日(金)	3週間	全学	English Language Teaching Unit (ELTU)が実施するオンラインプログラムに参加します。このプログラムでは、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目的とした学習のほか、英国文化紹介やソーシャルイベント(現地学生との交流)が含まれています。
	米国 University of Northern Iowa	2021年2月8日(月) ～3月17日(水)	5～6週間	全学	ノーザン・アイオワ大学の The Culture and Intensive English Program (CIEP)における英語オンラインプログラムに参加します。このプログラムでは、リスニング・スピーキング・リーディングの週10時間コースまたは、ライティング・文法の週10時間コースいずれかに参加し英語力を磨くことが出来ます。

奨学金受給者数(私費外国人留学生)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
学習奨励費	2	5	3	8	5	24	5	12
学習奨励費(就職支援特別枠)							8	11
学習奨励費(コロナ支援)							6	17
(財)ロータリー米山記念奨学会	1	1	1	2	1	2	1	1
朝鮮奨学会		1	2	3		1	1	1

(財) 共立国際奨学財団				
日揮・実吉奨学会	1	1	1	1
山梨大学大学院博士課程私費外国人留学生支援金			5	10
甲府市ふるさと応援補助金による大学院博士課程私費外国人留学生支援金			8	8

新規協定締結校 (2020 年度)

	国名・地域名 Country/Region	大学等名 Institution	締結年月日 Agreement date
大学間	中国 China	揚州大学 Yangzhou University	2020.7.13
	アメリカ合衆国 United States of America	ノーザン・アイオワ大学 University of Northern Iowa	2021.1.26

JSPS 国際交流事業申請状況

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
外国人特別研究員(一般)	5	0	7	0	13	1	12	0
外国人特別研究員(欧米短期)			1	0				
外国人招へい研究者(長期)			2	0				
外国人招へい研究者(短期)	1	0	1	0				
研究拠点形成事業 A	1	0						
国際共同研究事業					2	1		
二国間交流事業(9月)	3	1	6	1	5	0	3	0
二国間交流事業(2月)								
論文博士号取得希望者支援	0	0						

JSPS 研究者養成事業申請状況

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
海外特別研究員	1	0	1	0			1	0
海外特別研究員(RRA)								
若手研究者海外挑戦					3	0	1	0
日本学術振興会賞					1	0		
日本学術振興会育志賞					2	0		

その他国際交流事業申請状況

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
さくらサイエンス	2	1	2	2	2	2	0	0
JASSO（短期派遣）	1	1	1	1	1	1	1	1
JASSO（短期受入）	1	0	1	0	2	0	3	1
JASSO（双方向）	1	0	1	0	2	0	1	1